

6

2002年

# 組合広報

NO. 426

よろこばれ 期待され 魅力ある

 **東京都鍍金工業組合**  
 **東京鍍金公害防止協同組合**

URL <http://www.tmk.or.jp>

<b>総代会挨拶</b>	環境問題に全力を	理事長 大村功作	1
<b>総代会</b>	東鍍工組第36回総代会		2
	公防協組第30回総代会		
	工組平成13年度事業報告		4
	工組平成14年度事業計画		7
	協組平成13年度事業報告		10
	協組平成14年度事業計画		13
	工組・協組貸借対照表・損益計算書		17
	平成13年度役員会委員会出欠一覧		20
	健保組合・厚生年金基金役員会出欠一覧		23
	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		25
<b>あなたの予定表</b>	7月の環研・協組集荷日程ほか		26
	訓練校7月授業案内		27
	随想「紫陽花で、私の想いが」	理事長 大村功作	28
	土壤汚染対策法成立公布		29
<b>ピックアップ</b>	ケディカQS9000認証取得ほか		30
<b>支部シリーズ</b>	本所支部の巻「生活バリューモール アルカキット錦糸町」		32
	材料組合 新理事長に間宮氏、全国鍍金技術コンクール案内		33
	帝釈天初詣によって膨らむ私の連想	組合相談役 板橋利次	34
	くらしに役立つめっきNHKラジオ放送		35
<b>支部通信</b>	城東支部、城西支部、城南連合支部		36
	城南支部、城北青年部会、大田支部		
	足立支部、葛飾支部、向島支部		
	本所支部、西部支部、足立鍍友会		
	協組・環研ニュース		47
	日本パーカ、日本カニゼンの株式取得 編集後記		48

## 環境問題に全力を

理事長 大村功作



東京都鍍金工業組合並びに東京鍍金公害防止協同組合の両総代会を開催したところ、ご多忙のなかをご来賓、総代、組合員の皆様のご出席を賜り厚くお礼申し上げます。

21世紀を迎えて初めの年、平成13年度はまことに激動の年でありました。アメリカでの同時多発テロ勃発以降、世界経済は減速し、我が国経済も大変厳しい状態が続いています。我々めっき業にとっても受注量の減少、需要構造の変化、国際競争の激化、環境問題等々、大変な1年を過ごしてきました。特に大手製造業の海外進出により、国内の空洞化が進んで我々の仕事量が少なくなるという極めて困難な時代に入りました。

我々めっき業界はここ数年来同じような廃業者数で推移してきましたが、全鍍連のデータによりますと、昨年は従業員数が激減しました。一昨年の脱退70社、従業員499名の減少と例年従業員の減少は500名以下で推移してきましたが、昨年は脱退71社、従業員2,711名と大幅に減少しました。東京組合でも同様に、一昨年は脱退32社で従業員120名の減少であったのが、昨年は25社313名となり、如何に仕事量がなくなり、企業のリストラが行われたかを示しているのではないかと思います。

このような状況の中で、東京組合は、本年3月に中国の深圳、東莞の工場視察を行いました。我々の想像を絶するくらい中国は活気に溢れ、物凄い勢いで発展している姿を目の当たりにしてきました。10年前に見た時は、日本とはまだ10年20年の差があり、いくら人件費が安いといっても心配はないというのが大方の見方でありましたが、ここへ来てこの時間差が完全なくなっています。我々製造業とはいえ、下請加工業であり、親企業が海外へ出て行くことは大きなダメージとなります。我々がいくら新技術の開発や人材の育成事業に前向きに取り組んでいるといっても、それが空洞化に対する打開策とはなっていません。我々が生き残っていくためにどのような方法があるのか我々も一生懸命考えていますが、こうした実情を行政、議員の先生方にもご理解を頂いて、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、我々にとって環境問題は最重要課題であります。PRTR、都環境確保条例と矢継ぎ早に規制がかけられてきました。昨日は土壤汚染対策法が参議院で決成立し、今後施行令等が決められていくこととなります。廃業する時は決して余裕があつて廃業するわけではなく、莫大な土壤の処分費などいろいろな問題があります。できれば国の基準を我々が順守できるような形をお願いするとともに、先行している都環境確保条例も同じような形にしてもらいたいと考えております。いずれにしても環境問題をクリアしないと我々業界も生きていけないわけで、組合は全力を上げて、我々が順守していけるような形となるよう努力して参りたいと思っていますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。これから総代会に入りますが、慎重審議の上にもスムーズな議事進行にご協力をお願い申し上げます。

---

---

# 東鍍工組第36回・公防協組第31回 通常総代会開催

東京都鍍金工業組合の第36回通常総代会と東京鍍金公害防止協同組合の第31回通常総代会が5月24日(金)午後2時から湯島の東京ガーデンパレスで行われた。

はじめに東鍍工組の総代会から入り、宮澤裕専務理事の司会により、出席総代が総代会議事に必要な法定数を満たしていることを報告した。

姫野正弘副理事長は開会の辞に続いて、大村功作理事長が挨拶し、長引く景気低迷のなかめっき業界の経営環境も非常に厳しい状況にあり、特に大手製造業の海外進出に伴い国内の空洞化により仕事量が一段と減少するなど深刻な影響を受けており、その対応について行政、政治のご支援をお願いする挨拶を述べた。(1P)。

議長選出は、司会者一任となり、満場一致をもって議長に向島支部の総代・石崎勝一氏(名誉顧問)を選出した。議案の審議に入り、各議案の内容を宮澤裕専務理事が説明した。

(1)平成13年度事業報告並びに決算報告及び剰余金処分承認の件

監査報告(小倉攻一監事)

(2)平成14年度事業計画、収支予算・資金計画及び経費の賦課並びにその徴収方法決定の件

(3)平成14年度借入金額最高限度決定の件

(4)平成14年度常勤役員報酬額限度決定の件

(5)理事欠員に伴う選任の件



---

---

第5号議案の理事欠員に伴う選任は、向島支部、本所支部それぞれ理事1名欠員となっており、この理事補充選任を行うもので、両支部長より役員選任規約に基づいて推薦された向島支部の向坪昭（竹内工業(株)）、本所支部の岡本博司（岡本金属工業(株)）の両氏が満場の拍手で承認された。以上で工組総代会議事を滞りなく承認可決した。

引続いて、公防協組の総代会に移り、小原俊幸専務理事の司会により、出席総代が総代会議事に必要な法定数を満たしていることを報告した。

議長選出は、司会者一任となり、再度向島支部の総代・石崎勝一氏が選任された。各議案の内容は、小原専務理事が説明した。

- (1) 平成13年度事業報告及び決算・剰余金処分承認の件  
監査報告（小倉攻一監事）
- (2) 平成14年度事業計画及び収支予算・資金計画並びに経費の賦課徴収方法決定の件
- (3) 平成14年度借入金額の最高限度決定の件
- (4) 平成14年度役員報酬額決定の件
- (5) 「鍍金廃液処理場運営規約」一部変更の件
- (6) 理事欠員に伴う選任の件

第5号議案の「鍍金廃液処理場運営規約」一部変更は、少量受注のコスト改善を図る目的で、第8条(処理料)に3項「第2条第1号の者から徴収する処理料は、集荷毎の集荷量が200リットルに満たない場合は16,000円とする」を追加するもので、原案通り承認された。

第6号議案の理事選任は、慣例により協同組合役員は工業組合役員(専務理事を除く)が兼任することになっており、本日工組総代会で選任された向島支部の向坪昭、本所支部の岡本博司の両氏を協同組合理事に選任するものである。以上で各議案が滞りなく承認可決され議長が退席した。

なお、今年度の十日会賞表彰は該当者がなかった。最後に由田猛副理事長が閉会の挨拶をして両総代会を終了した。

二部懇親会は、平野普三雄総財務委員長の司会により川上洋一副理事長の開会の辞、大村理事長の挨拶のあと、来賓として、宇田川芳雄衆議院議員、小杉隆元文部大臣、保坂三蔵参議院議員、時田公夫下水道局業務部長、矢部一都議、山本賢太郎都議、三原將嗣都議、三宅茂樹都議、中西一善都議代理、佐藤裕彦都議、石井義修都議、渡邊正勝全鍍連会長、小松康宏日本鍍金材料協組理事長、吉田勇埼玉県工組理事長から挨拶を頂き池田敏則総財務副委員長から来賓紹介があり、小橋秀壽顧問の乾杯音頭で祝宴に入った

## 21世紀にふさわしく諸規定を改正

### 事業実施状況

21世紀最初の年であった平成13年は、私達を取り巻く社会経済状況において、激動の1年であった。平成13年12月、日銀が発表した、企業短期経済観測調査(日銀短観)によると、米国の同時多発テロ事件以降の世界経済の減速などを背景に、その当時、多くの企業は、収益の大幅悪化が予想されていた。特に、売上げ不振による利益の落ち込みが目立ったのは、製造業で、大企業34.4%、中小企業は、42.5%といずれも、深刻な減益見通しとなり、製造業の業況は、4期連続して悪化し、全業種総崩れの様相を呈した。

このような、我が国の経済動向に加え、めっき業界では受注の低迷、需要構造の変化、国際競争の激化、地球規模の環境問題などで、苦難の年でもあった。とりわけ、大企業の海外移転による国内産業の空洞化は、めっき業界に、深刻な影響をもたらした。東アジア、とりわけ中国は、“アジアの生産基地・世界の工場”といわれるように、目覚ましい発展を続けている。また、中国は、世界貿易機関(WTO)に加盟し、貿易が拡大。それを活用して、我が国の大企業等の移動が加速化したことにより、産業の空洞化現象が、一層深刻となり、製造業の衰退が顕著になっている。めっき業にとっても、例外ではない。経済動向に加え、さらに私達、業界固有の環境規制問題や産業廃棄物の処理・処分問題などの様々な要因が、経営環境を一層、厳しいものにしていく。

今、めっき業界最大の課題である環境規制問題では、平成13年6月、下水道法施行令が改正され、下水道排除に関わる規制物質が追加され「ほう素」「ふっ素」等に関わる下水排除基準が適用されたが、私達の努力の成果として、めっき業は、暫定基準の適用という特

別の配慮をいただいた。

また、当組合は、組合員の皆様のご期待に応えるため、国のPRTTR法施行に際し、めっき業界の意向を反映させるべく、運用面での配慮を国等への働きかけるとともに、東京都環境確保条例の施行に関わる問題についても、情報収集に努めるとともに、東京都の関係局や東京都議会等に対し、組合員の皆様のご支援、ご協力のもとで、業界の実情を訴え、理解していただけるよう要請活動や話し合いを積極的に展開し、環境規制問題の解決に向け、鋭意努力してきた。

また、人材の育成については、業界の世代交代も進んでいるので、高等職業訓練校を中心に若手経営者の育成や、意識改革、あるいは、新技術の開発を進め、また、新しい需要を切り拓いていくためには、人材の確保・育成は欠かせないことを痛感し、そのための様々な具体的手法を試みてきた。また、新技術の開発と製品化については、環境科学研究所の円滑な運営や機能の強化に努めるとともに、公的研究機関との連携を密にし、新技術の開発や、製品化の付加価値を高めるための共同研究を行ってきた。

さらに、新しい時代の潮流に乗り遅れないためにも、当組合の広報委員会及び、ホームページ特別委員会が中心となり、一斉同報メールをスタートさせたほか、インターネットの活用、普及促進、広報誌の充実など、情報化推進活動を積極的に展開してきた。現在、当組合及び組合員の皆様の情報化に向けての意識改革やITへの対応などを進めるうえでの、新たな課題に直面している。平成13年度は、情報化推進のための着実な一歩を踏み出し、その礎を築いたところである。

様々な事業を進めてきたが、いまだ、組合

---

---

員の皆様のご期待に十分お応え出来ているとは言えない。平成13年度、当組合が様々な課題に全力で取り組んできたことへのご理解をいただき、今後とも、ご支援ご協力を賜りたい。以下、主要事業の実施状況である。

### 事業実施抜況

#### ①諸規定の改正

一昨年度の定款改正に続いて、平成13年度は、21世紀の幕開けにふさわしい新生組合として、脱皮を図るべく、主要な組合諸規則の点検と見直しに着手し、積極的に取り組む中なかで、新しい時代に合った諸規則を、概ね体系的に整備した。

#### ②環境問題への取り組み

環境基準に新しい項目が追加され、排水基準値の設定作業がなされている過程で、関係方面へめっき業界の実情を説明し、理解をさせていただくため、要請活動を積極的に展開し、その成果としての暫定措置を確保した。また、東京都環境確保条例の施行に関わる様々な問題についても、東京都に対して業界の現状を強く訴え、組合事業者が各種規制や届出等に円滑に対応でき、健在な経営が営めるよう組合事業を積極的に展開した。さらに、公設研究機関等と新しい環境規制に対応しためっきの処理技術の開発促進や新技術の開発及び製品の付加価値化にも努めてきた。また、PRT法の実行に関わる運用についても、小零細規模が多いめっき事業者においては、その対応が難しいと考えられるので、法や施行令、規則等に基づき、実施していく過程で、全鍍連や国に対し、めっき業界の実情を強く訴えるとともに、要望するなどして、速やかな対応に努めた。

#### ③環境科学研究所の運営

組合員事業所の排水分析、スラッジ分析、作業環境測定のほか、有害大気汚染物質の測定などを積極的に進めるとともに、組合員以外の事業所の広域需要にも、積極的に受け入れるなど、需要拡大に努めるとともに、土壌

汚染など新たな環境問題にも、鋭意取り組んできた。

#### ④人材育成と高等職業訓練校の運営

めっき業界を支え、活躍する人材の育成・確保を目的として、訓練校の運営に努めるとともに各種の技術講習会等を実施した。なお、訓練生には、「東京都公害防止管理者」、「特定化学物質等作業主任者」、「有機溶剤作業主任者」等の資格を取得するよう指導し、資格取得に一定の成果をあげるなど、社会的地位の向上に努めた。

また、毒物・劇物取扱者、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格取得を奨励するとともに、全国めっき技術コンクールでは、組合員や訓練生の積極的な出展や参加を勧めるなど、業界を支える人材の育成に関わる様々な事業を進めるとともに、行事等には積極的に参加してきた。

#### ⑤技能検定

東京都職業能力開発協会の委託による技能検定を実施し、有能な技能・技術者の育成に努めた。

#### ⑥組合広報の発行とホームページの立ち上げ

組合機関紙「組合広報」を毎月発行し、情報の提供と組合員相互の連携を図るとともに、関係方面に配布することにより、組合員が親しめる紙面づくり、情報の共有化など、その充実にも努めてきた。また、ホームページを立ち上げ、組合員相互の情報収集・提携に努め、組合の情報化推進を図った。

#### ⑦モノづくりにおいて東京都産業技術研究所との共同研究

平成10年度から4年間の予定で行っている東京都産業技術研究所とのモノづくりに関する共同研究を、電子顕微鏡と蛍光X線分析装置の無償貸与等を受け、引き続き、研究を進めてきた。

#### ⑧巡回健康診断

健康保険組合未加入事業所と組合本部事務局職員の健康診断を、巡回検診車により、春

秋2回実施し、組合として、組合員及び関係者の健康の保持・増進を図るため、健康管理の徹底に努めた。

#### ⑨委員会・部会

各委員会は、各々の課題や事業について適切な提言・報告・協議・情報交換を行い、組合事業運営の円滑化を図った。また、部会は、亜鉛めっき部会、工業用クロム部会、DP部会の3部会が、それぞれ研修や情報交換等を行い、それに対し、組合は、場と機会を提供し、その活動を側面から支援した。

#### ⑩理事会等

組合事業全般について円滑な事業運営を図るため、理事会、正副理事長会、常任理事会、支部長会、合同役員会等を必要に応じて開催し、各々の役割・機能をとおして円滑な組合運営に努め、業界の発展に寄与した。

#### ⑪関係団体等

東京都産業廃棄物問題協議会など、東京都関係の各種会議に参加するとともに、東京都職業能力開発協会や東京都中小企業団体中央会、公正取引委員会など特別法の目的をかかげた団体、さらには全国鍍金工業組合連合会など、業界全国組織など、業界関係団体などに、積極的に参画し、めっき業界発展と当組合の円滑な運営に努めた。

### 組合員数及び出資口数

(出資金1口4千円)

前年度末組合員数 589、出資口数 54,369、本年度増加組合員数 0、本年度減少組合員数 24、出資口数 1,928、本年度末組合員数 565、出資口数 52,441

### 平成13年度決算報告

貸借対照表及び損益計算書は17～18頁に掲載。

### 平成13年度剰余金処分

(平成13年4月1日～14年3月31日)

1. 当期末処分利益	4,399,084円
当期利益	2,029,361円
前期繰越利益	2,369,723円
2. 剰余金処分額	1,500,000円
利益準備金	500,000円
特別積立金	500,000円
センター修繕費	500,000円
3. 次期繰越利益	2,899,084円

### 監査意見書

中小企業団体の組織に関する法律第5条の23(第47条)において準用する中小企業協同組合法第40条第1項の規程により平成14年5月8日理事から提出された平成13年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案を監査した。

#### 1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する帳簿、書類を閲覧し、計算書類について検討を加え必要な実査、立合、照合及び理事からの報告の聴取その他相当な方法を用いて調査した。

#### 2. 監査結果の意見

(1) 事業報告書は適正と認めるとともに、財産目録、貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく表示しているものと認める。

(2) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しているものと認める。

平成14年5月8日

監事	田中	秀和
	〃	鈴木 健吾
	〃	海野 吉正
	〃	小倉 攻一
	〃	岩井 春治



## 環境規制問題の対応等 4 本柱の推進を

### 経済社会の動向と課題

21 世紀の 2 年目を迎えて、我が国は依然として不況下にあり、新年度も、名目は勿論のこと実質でも大幅なマイナス成長となる可能性が高いと言われている。この要因として我が国経済は、個人消費の低迷が続く、民間設備投資の減少に加え、金融機関の不良債権問題の深刻化、株価の最安値更新、完全失業率が、5%台で推移するなど、まさに、経済が萎縮するデフレ・スパイラルの過程に入り、需要の落ち込みが顕著になってきたことがいえる。

さらに経済のグローバル化の流れの中で、我が国製造業の生産拠点が、相次いで海外へ移転、とりわけ海外進出が集中しているのが東南アジア、なかでも中国は、家電産業を中心に、今や“アジアの生産基地・世界の工場”となっている。中国等へ生産拠点が移転することによって、我が国の生産基盤の弱体化、工業集積地の空洞化、雇用機会の減少に拍車がかかり、また、低価格商品の逆輸入が増加して、国内の低価格競争が激化するという事態も発生している。このような伏況も、経済のマイナス要因として働いている。

また、外需については、米国同時多発テロ事件以降、世界経済の減速などを背景に低迷が続いたが、本年後半には、急速に回復するのではないかと観測もあるが、一般的には、穏やかな景気回復にとどまるという見方が支配的で、我が国の経済への好影響は、当面、期待できないのではないかとされている。

一方、構造改革は、活力ある経済社会を実現するために、避けて通れない大きな課題となっている。政府は産業構造の変化のなかで、不況脱出を図るべく、様々な構造改革を断行しようと試みているが、今だ、目に見える効果がないのが現実である。これらの改革を成功させるためには、経済をデフレ・スパイラルに陥らないよう安定させることが重要であり、景気回復と構造改革の同時達成が求められているといっても、過言ではない。

さらに、近年、地球規模の環境・資源・エネルギー問題が、クローズアップされている。将来の世代に負の遺産を残すことがないように、私達は、経済活動との両立を図りつつ、地球環境の保全と資源循環型社会の実現に努めていかなければならない。

このように、我が国経済社会を取り巻く環境は様々な要因で、極めて厳しい状況が続いている。私達、めっき業界も例外ではない。長期にわたる不況のもと、環境規制問題への対応、産業廃棄物の処理・処分、業界を支える人材の確保・育成、新技術開発と製品化、高度情報化の推進と意識改革など、早急に取り組み、解決していかなければならない重要課題が山積している

### 平成 14 年度の基本方針

私達、めっき業界を取り巻く環境は今後、どのような変化を見せるのだろうか。長期化している複合不況の波は、一向に静まることなく続き、増大する倒産や失業など、過去に経験したことのない深刻な事態に直

面しており、景気回復の展望は、今だ、望めないのが現実である。また、我が国経済社会の動向や環境変化に加え、めっき業界は、産業空洞化の影響を大きく受け、受注量の大幅な減少、加工単価の値下げなどに加え、環境規制問題や産業廃棄物の処理・処分問題など、厳しい経営環境に直面している。私達は、創意と工夫、自助努力をするなかで、一致団結し、前途ほのぼのとした明日に向かって、確固たる道を切り開き、未来にはばたいていかなければならない。組合の具体的な事業を積極的に展開するに当たって、経済社会の動向を踏まえ、基本方針に基づき、組合員の皆様の声を十分把握した上で、本部・支部一体となった取り組み、関連団体や、関係機関との連携を一層強化し、諸事業の効果的な推進に努める決意を新たにした。平成14年度の基本方針は、4つの柱から成り立っている。

#### ①環境規制問題への対応

各種排水規制や、P R T R法及び、東京都環境確保条例施行など、環境規制問題については、業界の実情を行政側に理解していただくとともに、特別な業界への配慮をお願いしていく。私達、業界としても、直面する課題に対し、自ら対応できる手法と英知を結集して創造し、果敢に挑戦していく。新たに土壌汚染対策についても、行政の具体的支援措置が図られるよう、関係方面に精力的に働きかけ、組合員事業所の安定・向上に努めていく。

#### ②人材の確保・育成

組合併設の高等職業訓練校を中心に、新しい時代に対応できる人材を育成していく。即ち高度な職業能力を有する人材、豊かな創造性を有する人材の育成を、心がけてまいる。また技能検定制度を活用し、有能な技術・技能者の育成と技能士制度の普及な

ど、社会的地位の一層の向上に努めてまいる。

#### ③技術開発及び製品化

東京都立産業技術研究所など関係機関との連携を一層強化し、新しい技術の導入や共同研究開発、製品の高付加価値化を図ってまいる。

#### ④情報化の推進

従来からの「組合広報」の充実は、もとよりのこと、ホームページの大幅な更新、インターネットの普及など、組合の情報化推進の具体的あり方を構築し、組合員の皆様の意識・啓発を進め、組合情報ネットワークの確立を強力に進めてまいる。

### 平成14年度経費の賦課金並びにその徴収方法

1. 賦課金額  
33,652,900円  
平等割 3,500円×565組合員×12ヶ月  
人等割 140円×6,526名×12ヶ月  
但し、支部事務費として賦課金総額の3%を支部に還元する。 1,040,800円  
センター修繕費 5,608,800円  
但し、支部事務費として賦課金総額の3%を支部に還元する。 173,500円
2. 賦課率  
平等割 1組合員 月額 3,500円  
人等割 1人 月額 140円
3. 徴収方法  
毎月末までに、その月分を納入するものとする。  
センター修繕費は、各組合員賦課金の1ヶ月分を7月と11月に合計2ヶ月分徴収する。
4. 消費税  
賦課金は課税対象外として取り扱うので課税仕入れにはならない。

## 平成 14 年度収支予算

(平成 14 年 4 月 1 日～15 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

収入の部	平成 13 年度 予算	平成 14 年度 予算
<事業収益>	134,596	136,815
賦課金収入	35,141	33,652
センター維持基金	5,857	5,609
事業外収益	4,953	4,420
収益合計	180,547	180,496
<費用の部>		
事業費	55,988	56,025
一般管理費	115,696	122,009
予備費	2,000	2,000
費用合計	173,684	180,034
損益	6,863	462

## 資金計画

(平成 14 年 4 月 1 日～15 年 3 月 31 日)

<資金運用> (単位：千円)

1. 法人税等支払 (13 年 3 月決算分)	900
2. 資本の減少 脱退者出資金払戻等	7,712
3. 差引運転資本の増 合計	7,462 16,074
<資金調達>	
1. 固定資産の減少 (減価償却費)	7,900
2. 資本の増加	7,712
3. 利益 合計	462 16,074

平成 14 年度借入金最高限度

30,000,000 円

平成 14 年度常勤役員報酬額限

7,200,000 円

## 理事補充選任の件

向島支部、本所支部の理事欠員に伴い、補充選任を行うもので、選任方法は、総代会において議決権の 3 分の 2 以上の議決による方法で選任を行いたいと議長が諮り承認され、事務局が、向島支部から推薦された向坪昭氏(竹内工業(株))、本所支部から推薦された岡本博司氏(岡本金属工業(株))を発表、拍手で承認された。

なお、これまでの経過について平成 13 年 6 月 7 日、小林前副理事長の辞任届を受理し、副理事長欠員のまま今日にきたが、平成 14 年 4 月の第 6 回理事会で正副理事長推薦により向島支部の梅本喜四郎常任理事が副理事長に選任され、5 月 8 日の第 7 回理事会では池田敏則向島支部長が常任理事を兼任することが承認され、理事 1 名欠員となった。本所支部は黒須吉雄理事の組合脱退により理事 1 名欠員となっていたと事務局から説明があった。

## 訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

永田平吉氏(足立支部・(株)八神化学工業所社長)病氣療養中のところ 5 月 25 日午前 10 時 30 分死去、80 歳。告別式が 29 日午前 10 時から町屋斎場で行われた。喪主は永田八重子様

八木美代志様(八木延彦旧城南第 2 支部長の令夫人) 6 月 15 日午後 10 時 10 分肺血漿のため死去、78 歳。告別式は 19 日午前 11 時から目黒区碑文谷の円融寺示真殿で行われた。喪主は延彦氏。

## 急激な受注環境の悪化により利用料減少

### 概況

不景気は、深刻の度を深めており、巷ではデフレスパイラルが取り沙汰され、金融機関の大型合併による金融不安解消策は、ペイオフが現実のものとなり、大方の不安を解消するには至っていない。バランスシート不況とも称される不景気は、景気回復の決め手となる企業の投資意欲に悪影響を及ぼし依然として上向いて来ないようである。

平成 13 年度は、深刻な不景気の中で、大きな痛みを感じながら生き残りを模索した 1 年であった。めっき業界にとって環境保全に係る新たな課題が課されることになり、今後、事業を継続するにあたっての基本姿勢を問われることになった。事業を廃止する組合員は、汚染土壌問題への対応を求められることになり、事業廃止に対する支援制度もない中で、難問を解決しなければならない事態になっている。

組合事業は、組合員皆様の絶大なるご支援を得て運営しているが、急激な受注環境の悪化による利用量の減少は、組合運営を根底から揺るがし、今年度は、大きな損失を計上する事態になった。

今年度の共同公害防止事業は、シアン濃厚廃液 2,213 キロリットルを処理し、前年比 18.9%減、月当たり 210 キロリットルの予算に対し 12.2%減の 184.4 キロリットルの実績となった。

炭酸ソーダ結晶物等の持込処理は、前年比 58.7%減の 9,428kg、クロム引取幹旋は、前年比 18.8%減の 17,870kg を取り扱った。その他に組合員事業所の工場廃止に伴う廃液処理等を取り扱った。

めっき汚泥共同運搬事業は、延べ 424 事

業所と昨年度を 70 件下回り、集荷量は、前年比 11.4%減の 1,298,100kg を取扱った。

福利厚生事業は、弔慰金等の給付を行った。

教育情報事業は機関紙「組合広報」を工業組合と引き続き共同発行した。

以上、いずれも前年を下回る実績となり、組合財務の悪化を招いており利用料金体系の見直しなどの対策が必要になっている。

こうしたなかで、事務棟の機能を第 2 工場（旧工場）2 階部分に移転し、事務棟の増改築に年末完成の予定で着手したが、建築確認手続が必要となるなどで、完成が大幅に遅れ年度を跨ぐ事になった。また、建築確認申請に伴う仕様変更等で追加工事費用が発生した事については、深くお詫びを申し上げます。

遊休施設の利用は、本年度で建物の増改築をほぼ完了し、有効利用の基盤が整ったと考えている。今後は、新規事業構築を含めた財務改善に利用してまいりたいと考えている。

年末に硫化水素に起因すると考えられる労働災害が発生し、労働環境整備と課題であった硫化水素対策を進める必要に迫られている。

また、施設更新後、約 9 年が経過した施設の保全を定期修理で行った他、経年劣化で機能不全となっていた一部機械設備の更新を行った。

多くの課題を抱える中で、組合の経営体質強化を図るとともに今後とも、組合員皆様が、シアン濃厚廃液処理を中心とした産業廃棄物処分が安心して委託できますよう

事業を行っていく。

環境保全対策は、組合員皆様が事業を行うためには、必要不可欠で、社会的責任を果たす上で重要である。組合は、組合員皆様のご意見ご要望を踏まえお役に立てる事業を皆様の総意をもって実施してまいるので、今後ともご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 組合員数及び出資口数

(出資 1 口 10,000 円)

全年度末組合員数 648、出資口数 2,717、本年度加入組合員数 2、出資口数 9、本年度脱退組合員数 22、出資口数 79、本年度末組合員数 628、出資口数 2,647

## 1. 共同公害防止事業

### (1) シアン濃厚廃液の処理事業

加熱加水分解法によるシアン無害化施設は、機械設備の更新・工程改善、施設の保全を重ねながら、概ね順調に稼働している。

シアン廃液の集荷量は、めっき業以外の業種のシアン廃液を受け入れる等の努力をしたが、年間総量は、前年実績及び予算を下回った。依然として業界の景況は好転していないので、従前同様の厳しい環境に晒されている。組合員の、事業廃止などで年々減少傾向が継続しており、組合員の仕事量の減少を反映する結果となっている。

シアン廃液の年間計画集荷量は 2,520 キロリットル、料金収入予算 173,340 千円に対し、実績は、集荷量 15.75%減 2,729 キロリットル、18.73%減 140,878 千円となり、月当たり 184.4 キロリットルの集荷と激減した。

ア. 標準処理能力	300 キロリットル/月
イ. 集荷実績	184 キロリットル/月
ウ. 処理実績	191 キロリットル/月
工. 稼働率	63.7%

オ. 転廃業等減額 525,690 円/9 件/年

### (2) シアン系炭酸ソーダ結晶物等の処理事業

シアン濃厚廃液処理の付帯事業である炭酸ソーダは、当期は前年比 58.7%減 9,428kg、料金収入 755 千円となった。

ア. 標準処理能力	8,000kg/月
イ. 取扱実績	785kg/月
ウ. 利用料金収入	63 千円/月

### (3) クロム濃厚老化液の引取斡旋事業

シアン処理事業と並行して行われているクロム引取事業は、当期は 17,870kg を取扱い、前年比 30.9%減となった。

ア. 斡旋実績	1,489kg/月
イ. 転廃業等減額	26,100 円/1 件/年

### (4) その他の処理斡旋事業

青化カリ、青化ソーダ等シアン系廃工業薬品等の取扱いの他に、廃業工場の産業廃棄物処分、土壌調査などを受注した。

## 2. めっき汚泥の共同運搬事業

年間目標 1,500 トンの取扱いを見込んだが、取扱実績は、1,298 トン、86.5%の達成率となり、計画を下回った。

## 3. 福利厚生事業

組合員見舞金規程に基づき見舞金及び弔慰金を給付し、組合員の相互扶助を行った。

ア. 見舞金	2 件	60,000 円
イ. 死亡弔慰金・花輪代	28 件	322,596 円
計		382,596 円

## 4. 教育情報事業

### (1) 組合機関誌の発行

組合機関誌として東京都鍍金工業組合と共同して「組合広報」を毎月発行し、組合員及び官公庁、関係業界に配布し、組合事業の進捗状況を詳細に紹介しつつ活発に情

報提供を行った。

(2) 組合案内の発行

東京都鍍金工業組合と共同して3月に発行し、組合員及び関係機関に配布した。

(3) 業界関係者への宣伝活動

めっき業界の団体機関紙等に事業広告を行い、関係者に理解と認識を訴えた。

(4) 支部産業展への助成

5支部（城東、足立、葛飾、向島、本所）が4地域（江戸川区、足立区、葛飾区、墨田区）の地元区主催産業展に出展したので、これを助成し、めっき製品と業界イメージアップを奨励した。

## 5. 事務局業務の総合電算化

マニフェスト、売掛管理の電算化とともに財務経理との一連システム及び、工場とのネットワーク、大森興産(株)とのネットワークは順調に稼働している。

電子マニフェストシステムの利用については排出事業所の同制度への参加が少ないので現況では有効に利用出来ていない。

## 6. 事務棟の増改築

5月に事務棟等の機能を第2工場(旧工場)2階部分に移転し、9月から増改築工事に着手したが、建築確認手続きが必要になったことから、工事が中断し、1月に工事を再開した。年度末完成予定であったが、工期が遅延し完成は翌年度に繰り越すことになった。利用については、1階部分は、駐車場として自己使用する他は駐車場として賃貸し、2階部分は、一部を事務室として賃貸する他、新規事業構築を含めた利用計画を検討中である。

## 平成13年度決算報告

貸借対照表及び損益計算書は19頁掲載。

## 平成13年度損失処理

(平成13年4月1日～14年3月31日)

1. 当期末処理損失	△12,205,886円
1. 当期損失	△17,473,447円
2. 前期繰越利益	5,267,561円
2. 損失てん補取りくずし額	12,205,886円
1. 施設維持積立金	12,205,886円

## 監査意見書

中小企業等協同組合法第40条第1項の規程により、平成14年5月8日理事から提出された平成13年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び損失処理案を監査した。

### 1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する帳簿、書類を閲覧し、計算書類について検討を加え必要な実査、立合、照合及び理事からの報告の聴取その他相当な方法を用いて調査した。

### 2. 監査結果の意見

(1) 事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく表示しているものと認める。

(2) 損失処理案は、法令及び定款に適合しているものと認める。

平成14年5月8日 監事 田中秀和  
" 鈴木健吾  
" 海野吉正  
" 小倉攻一  
" 岩井春治

東鍍工組中国表面処理工業7社視察その2は、今回総会等のページ数の関係から次の7月号に掲載します

## 個別改善等5課題と取組んで行く

### 基本方針

平成不況は、一段と深刻化しており自助努力だけでは問題を解決できない三重苦の状態にある。そうした中で環境保全の必要性は、その重要性を増している。

毎年、2%を越える組合員の事業廃止による減少は、組合の経営基盤を根底から揺るがしている。組合経営基盤の継続的維持は、変わらぬ課題であるが、独自の経営基盤の構築を検討する時期にきている。そのためには、体制強化が必要であり、本年度の課題として

1. 個別改善：①ムダ、ロスを排除する改善活動②コストミニマムを追求
2. 自主保全：①オペレーター自ら設備保全を行う体制づくり②設備生産性向上
3. 計画保全：①設備信頼性向上②保全費低減活動
4. 品質保全：①処理不全の排除②処理条件設定・条件管理
5. 安全環境：①災害・公害ゼロ体制②快適環境づくり

この五つの課題に取組み安全・確実な処理を行なうとともに処理コストの削減に取り組み、継続して組合事業を利用して頂ける環境造りに努力する。

東京都環境確保条例では、汚染土壌対策が提示されており、共同事業として構築すべき新たな環境保全事業及び技術開発が必要になっている。新規環境保全事業・技術開発は、公設試験研究機関、大学及び関係会社の協力を得ながら、組合員ニーズを勘案しながら課題に取り組んでいく。

当組合の主事業である共同公害防止事業は、毎期定期修理に多額の費用を掛けて維持を図っている。技術の陳腐化、設備の老朽化を視野に置いて計画保全を計っていく。中小企業

高度化資金借入の返済は順調に進んでいるが、返済は平成26年まで続く。本年度は、深刻な受注環境から極めて厳しい予算編成を強いられており、今後想定される保全経費の資金積立は今期においても困難と考えている。第2工場及び事務棟については、平成13年度までに改修等を終え引き続き利用できる環境を整えたので、具体的な利用を計画・実施したいと考えている。

平成14年度においてはシアン廃液集荷量を前年計画5%減の200キログラム/月に設定し、予算編成を行っている。めっき汚泥共同収集運搬事業は、平成13年度と同じ125t/月として予算を編成した。費用面では、極力切り詰めた予算を策定している。組合の組合員施策である教育情報事業やその他事業は、平成13年度並みに実施を予定している。

環境管理システムに取組むにあたり、必要人員の補強、内部監査員の養成などの費用を計上し、認証取得に向けて、環境管理活動を積極的に実施する。環境保全事業は利益を生む事業として、有望な事業であるが、事業継続には、諸規制の改正に加え、近隣を含めた理解を得る必要がある。環境管理活動などで厳しく自らを律することの出来る体制を充実させ、「組合員の為になる組合事業」を主眼として組合事業を展開し、今後も組合員サービスに努めてまいる。組合員皆様のご協力ご利用、合わせて関連の皆様方のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

### 共同公害防止事業（有害産業廃棄物の中間処理と処理斡旋）

1. シアン濃厚廃液集荷促進と処理の円滑化  
(1) 組合員の拡大については、特に関東甲信越静岡の工業組合傘下の組合員へ組合加入を勧

---

---

奨励するなど積極的に組織の拡大を図るとともに、シアン濃厚廃液並びに廃アルカリの集荷量の拡大に努める。また、シアン濃厚廃液並びに廃アルカリ排出事業所の緊急度により、迅速適切な集荷サービスを実施する。

(2)シアン等有害物質使用者に、適切な使用と廃棄物の適正処理に務めるよう注意を喚起する。廃棄物の処分にあたっては、事故を未然に防止するために、最小限の保管に止め、長期間保管しないように周知し、円滑な集荷を推進する。

(3)組合員である転廃業者の廃棄物処理料金は、現金取引を条件として30%の料金軽減を行う。

## 2. シアン系炭酸ソーダ結晶物処理の円滑化

シアン濃厚廃液処理の付帯事業としてめっきシアン浴中に発生した炭酸ソーダ結晶物のほか青化ソーダ、青化カリ等の廃薬品を付帯事業として施設で積極的に処理し、業界、官公庁、警察署等からの要請に応え、社会的使命を担う。

## 3. クロム引取斡旋業務の円滑化

(1)クロム老化液排出事業所からの集荷依頼に即応し、迅速適切な集荷サービスを斡旋する。

(2)組合員である転廃業者の廃棄物処理料金は、現金取引を条件として30%の料金軽減を行う。

## 4. 汚泥、廃酸、廃アルカリ、その他有害産業廃棄物の処理斡旋。

有害な各種汚泥、廃酸、廃アルカリ、工業薬品等について、組合員の利便に供するため処理斡旋を行う。

## めっき汚泥共同運搬事業（無害産業廃棄物の運搬処分斡旋）

組合員の都内事業所から発生する無機性汚泥は、都内統一料金で東京都中央防波堤埋立処分場へ収集運搬業者9社に委託し収集運搬する共同事業を行っている。効率的な収集運

搬方法を検討し、本年度においても、委託業者の協力を得て、汚泥処分の円滑化を図る。

## 一般組合事業

### 1. 福利厚生事業

組合員見舞金に基づき見舞金および弔慰金を給付し、組合員の相互扶助を行う。

### 2. 教育情報事業

東京都鍍金工業組合と協力して発行する「組合広報」に経営、技術情報、組合役員会・委員会の運営状況や議事内容、集荷月次予定等を掲載し、組合員および官公庁、関係業界に組合事業の進行状況を紹介し情報提供を行う。

### 3. 環境管理推進事業

平成10年12月に、電子マニフェストシステムに加入し、組合員の利便に供すべく同制度への取組について、継続して研究開発を実施する。

めっき工場の排水事故防止のため、FSS「排水監視電話通報システム」の普及促進を継続して行い、希望者に「排水処理自己点検記録表」の配布を行う。

### 4. 事務局業務の電算システムの効率的運用と保守

マニフェスト、売掛管理、受発注業務システムの、合理的運用及びシステムの保全管理を進める。

## 共同処理施設「城南処理センター」の維持管理及び安全操業

処理施設は、現在は順調な操業を行っている。高濃度シアン化合物を高温高圧で処理する施設であり、維持管理及び安全操業には、引続きメーカーの指導を受けながら十分に留意しつつ操業を行う。

シアンの熱加水分解による完全無害化の確認、高度な排水処理の研究を継続して実施しより高度な排水処理を目指すとともに、熱加水分解の合理的運用、可能性についての研究



開発を継続して行う。

## 第2工場及び事務棟の有効利用

平成12年度、13年度改修を完了した第2工場2階部分及び事務棟の有効利用を図る。事務棟1階部分に設置した駐車場については、組合保有車の駐車に当てるほか、関係者に賃貸する。未利用部分については、賃貸を含め利用計画を策定する。

## 事業計画

### 1. シアン濃厚廃液の共同処理事業

(特別管理産業廃棄物の中間処理)

月間集荷目標 シアン濃厚液(廃アルカリ) 200キログラム  
月間処理目標 200キログラム

集荷処理数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1日	10.0キログラム	745千円
1月	200キログラム	14,894千円
1年	2,400キログラム	178,730千円

集荷処理料金

組合員 都内集荷 1リットル当り 80円  
持込 1リットル当り 60円  
一般 都内集荷 1リットル当り 80～110円  
を基本とする。

収集運搬：東京鍍金公害防止協同組合  
大森興産株式会社

中間処理：東京鍍金公害防止協同組合

処理方法：シアン化合物の分解

処理能力：日量最大 16キログラム

月当り最大 300キログラム

貯留能力：最大 160キログラム

### 2. シアン系炭酸ソーダ結晶物の共同処理

(特別管理産業廃棄物の中間処理)

月間集荷目標 水溶性シアン化合物(汚泥) 900kg

月間処理目標 900kg

集荷処理数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1日	43kg	3.9千円
1月	900kg	81千円
1年	10,800kg	972千円

集荷処理料金

組合員 持込 kg当り 90円

一般 持込 kg当り 100～115円

総平均 持込 kg当り 91円

収集運搬：排出事業者が搬入する。

中間処理：東京鍍金公害防止協同組合

処理方法：シアン化合物の分解

処理能力：日量最大 250kg

月当り標準 2,500kg

保管能力：最大 8,000kg

### 3. クロム濃厚老化液の引取幹旋事業

月間取扱目標 3,000kg

取扱数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1日	125kg	10千円
1月	3,000kg	20千円
1年	36,000kg	240千円

手数料率 幹旋集金手数料 10%

収集運搬処分 ミヤマ株式会社

### 4. その他産業廃棄物の処理幹旋事業

(産業廃棄物の収集・運搬 [保管・積替えを含む])

取扱品目 廃酸、廃アルカリ、汚泥、廃油、  
廃プラスチック類、金属くず、燃えがら、  
ガラスくず及び陶磁器くず以上8種類

手数料率：幹旋集金手数料 10%

収集運搬：東京鍍金公害防止協同組合

処分：ミヤマ株式会社

### 5. めっき汚泥共同運搬事業

取扱品目：汚泥(排水処理施設から発生する無  
害無機性汚泥)

月間目標 125t

### 集荷処理数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1日	6.25t	129千円
1月	125t	2,575千円
1年	1,500t	30,900千円

### 取扱料金

総平均 トン当り 20,600円

東京都処分料金 トン当り 10,000円

収集運搬費 平均 トン当り 10,600円

収集運搬：日本サニティション(株)

(株)丸三興業、(有)菅原商事、(株)メイシン

(株)フジ・プランナー、総武環境整備(株)

(有)かすが商事、(株)三美、大森興産(株)(三明化成(株))

処分先：東京都処分場(中央防波堤外側埋立地)

### 平成14年度収支予算(単位：千円)

(平成14年4月1日～15年3月31日)

収入の部		支出の部	
事業収入	242,218	事業費	213,510
賦課金収入	1,488	一般事業費	1,700
事業外収入	8,360	管理費	35,740
予備費	1,116		
合計	252,066	合計	252,066

### 平成14年度経費の賦課金額並びにその徴収方法

平成14年度賦課金額の総額は1,488,000円とし、次の方法により徴収する。

#### 1. 賦課金額

均等割 1組員 月額200円

#### 2. 徴収方法

毎月末までにその月分を支部で取りまとめて納入するものとする

#### 3. 消費税

賦課金は、課税対象外として取り扱うので課税仕入れにはならない。

### 平成14年度借入金額の最高限度

410,000,000円

### 平成14年度役員報酬額限度

7,800,000円

### 鍍金廃液処理場運営規約一部変更

#### (1) 変更理由

処理料金に基本料金を設定し、少量受注のコスト改善を図る。

#### (2) 変更箇所 第8条(処理料)

#### (3) 変更条文(アンダーラインを追加)

第8条 廃液の処理料は、次のとおりとする。

(1) シアン濃厚廃液 1ℓ 80円

都内事業所渡し

(2) 炭酸ソーダ結晶物 1kg 90円

2 第2条第2項の者から徴収する処理料は、前項の額の倍額以内において理事会が決定する。

3 第2条第1項の者から徴収する処理料は、集荷毎の集荷量が、200ℓに満たない場合は、16,000円とする。

### 理事2名補充選任

工業組合総代会で理事2名の補充選任が行われたが、協同組合は専務理事を除く工業組合役員が兼任することになっており、工業組合総代会で選任された理事2名(向島支部・向坪昭氏、本所支部・岡本博司氏)を協同組合理事に選任することが承認された。

### 平成14年度資金計画(単位：千円)

(平成14年4月1日～15年3月31日)

#### 資金運用

#### 資金調達

借入金返済		前期繰越	131,168
高度化資金	35,928	出資金	90
事務棟改修費	6,000	保証金	0
熱加水分解工程改善	10,000	必要利益	1,626
法人税等支払	180	減価償却	67,220
消費税支払	758		
脱退出資金払戻	890		
差引運転資金	146,348		
合計	200,104		200,104

# 貸借対照表

平成 14 年 3 月 31 日

東京都鍍金工業組合(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【資 産】</b>		<b>【負 債】</b>	
I.流動資産		I. 流動負債	
現金	494,637	買掛金	1,820,129
当座預金	1,901,705	前受金	389,912
普通預金	24,031,659	前受金(クーポン券)	19,762,428
定期預金	58,756,751	預り金	1,312,426
吉川賞引当資産	5,931,760	脱退者出資金	8,554,000
十日会賞引当資産	3,994,035	技能検定受験料預り金	188,400
虎石賞引当資産	2,394,822	仮受金	37,500
新技術開発基金	4,708,239	賞与引当金	1,219,707
現金・預金 計	102,213,608	未払法人税等	903,493
売掛金	4,172,166	未払消費税	1,499,000
有価証券	19,706,000	流動負債 計	35,686,995
在庫品	1,746,691	II.固定負債	
立替金	24,124	長期預り金	50,860,000
流動資産 計	127,862,589	退職給与引当金	11,625,281
II.固定資産		固定負債 計	62,485,281
1. 有形固定資産		負債合計	98,172,276
建物	99,877,815	<b>【資 本】</b>	
設備	105,618,401	I. 資本金	
機械及び装置	9,573,600	出資金	209,764,000
什器備品	39,196,952	資本金 計	209,764,000
減価償却累計額	△ 176,404,459	II.資本準備金	
土地	183,000,000	加入金	4,013,000
有形固定資産 計	260,862,309	資本準備金 計	4,013,000
2. 無形固定資産		III.利益準備金	
電話加入権	544,408	利益準備金	19,550,000
ソフトウェア	2,100,000	利益準備金 計	19,550,000
減価償却累計額	△ 681,817	IV.組合積立金	
無形固定資産 計	1,962,591	特別積立金	33,607,779
3. 投資等		センター修繕費	15,000,000
長期貸付金	2,827,619	技術研究開発積立金	9,033,969
関係団体出資金	25,000	組合積立金 計	57,641,748
投資等 計	2,852,619	前期繰越利益	2,369,723
固定資産合計	265,677,519	当期利益	2,029,361
		当期未処分利益 計	4,399,084
		資本合計	295,367,832
資産の部合計	393,540,108	負債及び資本合計	393,540,108

# 損益計算書

平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日

東京都鍍金工業組合 (単位：円)

費用の部		収益の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1.. 事業費		1.. 事業収入	
教育情報事業費	11,373,973	教育情報事業収入	5,392,035
福利厚生事業費	3,177,097	分析事業収入	74,643,282
分析事業費	7,816,635	簡易分析薬品等収入	5,020,392
クーポン手数料	621,140	訓練校事業収入	18,512,773
簡易分析薬品等事業費	4,529,164	貸室収入	27,943,249
訓練校事業費	27,037,453	教育事業補助金収入	7,230,500
期首商品棚卸高	1,725,945	事業収入計	138,742,231
期末商品棚卸高	△ 1,746,619	2.. 賦課金収入	
事業費計	54,534,716	賦課金収入	34,691,870
2.. 一般管理費計		センター修繕費	5,784,510
役員報酬	7,000,000	賦課金収入計	40,476,380
給料手当	41,225,860	3.. 事業外収入	
賞与	5,996,325	受取利息	249,827
出向負担金	9,931,277	受取配当金	40,586
賞与引当金繰入	1,219,707	雑収入	5,121,717
退職金	238,000	事業外収入計	5,412,130
退職共済掛金	561,000	4.. 特別利益	
法定福利費	9,799,460	賞与引当金戻入	2,323,530
福利厚生費	327,343	特別利益計	2,323,530
新聞図書費	252,026		
旅費交通費	4,046,090		
通信費	1,855,553		
事務用品費	1,124,592		
印刷費	1,241,959		
会議費	1,022,906		
慶弔費	253,476		
関係団体負担金	12,236,125		
支払保険料	270,140		
水道光熱費	3,747,132		
車輛費	893,622		
コンピュータ関係費	1,938,017		
修繕維持費	2,165,993		
租税公課	7,557,768		
支払手数料	4,530,756		
減価償却費	7,813,836		
顧問料	1,090,000		
雑費	1,074,538		
一般管理費合計	129,431,501		
3.. 事業外費用	0		
雑損失	0		
4.. 特別損失			
固定資産除却損	55,200		
特別損失計	55,200		
5.. 税引前当期利益			
税引前当期利益	2,932,854		
法人税及び住民税	903,493		
当期利益	2,029,361		
合 計	186,954,271	合 計	186,954,271

## 貸借対照表

平成14年3月31日現在

東京鍍金公害防止協同組合 (単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
〔資 産〕		〔負 債〕	
I. 流動資産	223,508,582	I. 流動負債	30,187,207
II. 固定資産		II. 固定負債	407,793,000
1.有形固定資産	558,598,413		
2.無形固定資産	295,324		
3.その他の固定資産	1,181,000		
固定資産計	560,074,737		
		負債合計	437,980,207
		〔資 本〕	
		I. 資本金 (出資金)	26,470,000
		II. 利益準備金	34,660,000
		III. 組合積立金	296,678,998
		IV. 剰余金計	
		当期末処分損益	
		前期繰越利益	5,267,561
		当期損失	△17,473,447
		当期末処分損失計	△17,205,886
		剰余金計	284,473,112
		資本合計	345,603,112
資産合計	783,583,319	負債及び資本合計	783,583,319

## 損益計算書

(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)

東京鍍金公害防止協同組合 (単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I. 事業費	75,936,974	I. 事業収入	203,959,974
II. 処理費用	111,668,041	II. 賦課金収入	1,540,800
III. 一般事業費	724,796	III. 事業外収入	9,837,410
IV. 管理費	43,512,592	IV. 特別利益	9,206,101
V. 事業外費用	48,714		
VI. 特別損失	9,946,615		
VII. 税引前当期利益			
法人税等充当額	180,000		
当期損失	△17,473,447		
税引前当期損益計	△17,293,447		
合 計	224,544,285	合 計	224,544,285

# 東鍍工組・公防協組 平成 13 年度役員会委員会出欠一覧

(平成 13 年 6 月から 14 年 5 月)

## ●正副理事長会

役職名	氏 名	6/	6/	7/	8/	9/	9/	10/	11/	12/	1/	1/	2/	3/	4/	5/
		6	12	4	2	11	19	12	7	3	8	21	6	4	3	8
理事長	大村 功作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	姫野 正弘	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	由田 猛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	川上 洋一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専務理事	宮澤 裕	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## ●工組・協組 理事会

役職名	氏 名	7/	9/	11	2/	4/	5/	支部長理事	藤田 直人	○	×	○	○	○	○
		4	19	/7	6	3	8								
理事長	大村 功作	○	○	○	○	○	○	理事	原 清一	○	×	○	○	○	○
副理事長	姫野 正弘	○	○	○	○	○	○	支部長理事	志田 和暘	○	×	○	×	○	○
"	由田 猛	○	○	○	○	○	○	理 事	吉川 進	×	○	○	×	×	○
"	川上 洋一	○	○	○	○	○	○	理 事	池谷 純一	×	×	×	×	×	×
専務理事	宮澤 裕	○	○	○	○	○	○	理 事	池田 潤一	×	○	×	×	○	×
常任理事	鈴木工匠頭	×	×	×	×	×	×	支部長理事	篠根 健一	○	○	○	○	○	×
"	柏村 一志	○	○	○	○	○	○	理 事	茅野 一彦	○	×	○	×	○	○
"	木村 秀利	○	○	○	○	○	○	支部長理事	下平 誠	×	○	○	○	○	○
"	高倉 利守	○	○	×	×	×	×	理 事	小嶋 撰郎	×	○	○	○	×	○
"	内藤 雅文	○	○	×	×	○	×	支部長理事	小澤 栄男	○	○	○	○	×	○
"	平野普三雄	○	○	○	○	○	○	理 事	永田 一雄	○	○	○	○	○	○
"	間部健太郎	○	○	○	×	○	○	支部長理事	神谷 博行	○	○	○	○	○	○
"	永田 吉輝	○	○	○	○	○	○	理 事	西谷 幸一	○	×	×	×	×	○
"	菊池 忠男	○	○	○	○	○	○	理 事	石川 進造	○	×	×	○	×	○
"	梅本喜四郎	○	○	○	○	○	○	支部長理事	池田 敏則	○	○	○	○	○	○
"	安斎 克茂	○	○	○	○	○	×	理 事	石田 昌久	○	○	×	○	×	○
"	半田 實	○	○	○	○	○	○	支部長理事	山田英佐夫	○	○	○	○	○	○
支部長理事	八幡 順一	○	○	○	○	○	○	支部長理事	田代 政明	○	○	×	○	○	○
理 事	遠藤 清孝	○	○	○	○	○	×	理 事	西原 敬一	×	×	○	×	○	×
支部長理事	元井 民夫	○	○	○	○	○	○	監 事	田中 秀和				○	○	○
理 事	津田 智宗	×	○	○	○	×	×	"	鈴木 健吾	○	○			○	○
理 事	小橋 秀一	○	×	○	○	○	○	"	海野 吉正	○		○	○		○
支部長理事	中澤 敏明	○	○	×	○	○	○	"	小倉 攻一		○				○
理 事	小谷野英勝	○	×	○	○	○	○	"	岩井 春治	○	○	○			○

●総財務委員会・合同会

役職名	氏名	12/6	2/6
副理事長	由田 猛	○	○
委員長	梅本喜四郎	○	○
副委員長	平野普三雄	○	○
副委員長	永田 吉輝	○	○
城東支部	鈴木工匠頭	×	×
城東支部	八幡 順一	○	○
城西支部	柏村 一志	○	×
城西支部	元井 民夫	○	×
城南支部	木村 秀利	○	○
城南支部	中澤 敏明	○	○
品川支部	高倉 利守	×	×
品川支部	藤田 直人	○	×
大田支部	内藤 雅文	×	×
大田支部	志田 和陽	○	○
城北支部	篠根 健一	×	○
中央支部	間部健太郎	○	×
中央支部	下平 誠	○	○
足立支部	小澤 栄男	○	○
葛飾支部	菊池 忠男	○	○
葛飾支部	神谷 博行	○	○
向島支部	池田 敏則	○	○
本所支部	安斎 克茂	○	○
本所支部	山田英佐夫	○	○
西部支部	半田 實	×	○
西部支部	田代 政明	○	○

12/6：総財務委員会、2/6：合同会

●工組・協組 監事会

役職名	氏名	9/7	11/6	2/4	4/22	5/8
監事	田中 秀和	○	○	○	○	○
〃	鈴木 健吾	○	○	○	○	○
〃	海野 吉正	×	○	○	○	○
〃	小倉 攻一	○	○	○	○	○
〃	岩井 春治	○	○	○	○	○

●工組・協組 広報委員会

役職名	氏名	6/20	8/3	10/4	12/7	2/4	4/4
副理事長	由田 猛	○	○	○	○	○	○
委員長	木村 秀利	○	○	○	○	○	○
副委員長	半田 實	○	○	×	×	○	○
〃	神谷 博行	○	○	×	○	○	○
城東支部	内山 雄介	○	○	○	○	×	○
城西支部	溝口 昌範	○	×	×	○	×	×
城南支部	大坂 厚士	○	×	○	×	×	○
品川支部	伊藤 則夫	○	×	×	×	×	×
大田支部	石川 貞行	○	○	×	×	×	×
城北支部	今村 和則	○	○	○	○	○	○
中央支部	堀江 清	○	○	○	○	○	○
足立支部	小島 一浩	×	×	×	○	○	×
葛飾支部	石川 進造	○	×	○	○	×	×
向島支部	籠利 達郎	○	○	○	○	○	○
本所支部	野田 光昭	○	○	×	○	○	○
西部支部	角田 洋久	×	○	○	○	×	○

●ホームページ特別委員会

役職名	氏名	6/21	7/25	10/22	11/27	12/20
副理事長	由田 猛	○	○	×	×	×
委員長	石川進造	○	○	○	○	○
副委員長	江原一美	○	○	○	○	○
	深谷達志	○	○	○	○	○
	木村秀利	○	○	×	○	×
	藤田直人	○	×	×	×	×
	大川和俊	○	×	×	×	×
	柴田 徹	○	○	○	×	×

●環境委員会

	氏名	7/10	9/5	10/2	12/4	2/5	3/5	4/23
副理事長	川上洋一	○	○	○	○	○	○	○
委員長	菊池忠男	○	○	○	○	○	○	○
副委員長	安斎克茂	○	○	○	×	×	○	○
副委員長	柏村一志	○	○	○	○	○	○	○
城東支部	遠藤清孝	○	○	○	○	○	○	○
城西支部	内田悦美	○	○	○	○	○	○	○
城南支部	藤田嘉雄	○	○	○	○	○	○	○
品川支部	下田 篤	○	○	○	○	○	○	○
大田支部	佐藤富幸	○	○	○	○	○	○	○
城北支部	森 勝美	○	○	○	○	○	○	×
中央支部	小嶋撰郎	○	○	○	○	○	○	○
足立支部	磯村博明	○	○	○	○	○	○	○
葛飾支部	佐藤秀昭	○	○	○	○	○	○	○
向島支部	向坪 昭	○	○	○	○	○	○	○
本所支部	横山 昇	○	○	○	○	○	○	○
西部支部	西原敬一	○	○	○	○	(代)	○	○

●技能教育委員会

	氏名	6/7	7/7	8/28	10/30	1/29
副理事長	姫野 正弘	○	○	○	○	○
委員長	八幡 順一	○	○	○	○	○
副委員長	鈴木工匠頭	○	×	×	×	×
副委員長	高倉 利守	○	○	○	○	○
城東支部	芹川 充公	×	○	○	○	○
城西支部	荻宿 充久	○	○	○	○	○
城南支部	若山 雅史	○	○	○	○	○
品川支部	菅野 勝靖	×	×	○	×	(代)
大田支部	志田 和陽	○	○	○	○	○
城北支部	田村 卓也	○	○	○	○	○
城北支部	大和田昌宏	○	○	○	×	○
中央支部	石井 徹夫	○	○	○	○	○
足立支部	豊田 金造	○	○	○	○	○
葛飾支部	太田 幸一	○	○	○	×	○
葛飾支部	中田 充彦	○	○	○	○	○
向島支部	坂井 正弘	○	○	○	○	○
本所支部	山田英佐夫	○	○	○	○	○
西部支部	鈴木 清次	○	○	○	○	○



## 関東めつき健康保険組合

●理事会・事業運営委員会・組合会

役職名	氏名	5/1	6/18	7/13	7/13	7/24	9/20	9/25	10/15	11/2	11/13	12/11	12/18	1/17	2/13	3/7	3/19
理事長	大村 功作	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
理事長代理	石川 進造	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
常務理事	高原 俊昭	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
理事	遠藤 清	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
〃	内藤 雅文	×	—	×	×	—	—	×	—	—	—	—	×	×	○	×	○
〃	松下 巖	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
〃	山崎 五郎	×	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	×	○
〃	戸塚 由雄	×	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	×
〃	高倉 利守	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	×	×	×
〃	平野普三雄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○
〃	木下 好雄	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
〃	永田 吉輝	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
〃	岩井 春治	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
〃	山下 陽右	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	×	○	○	○
議員	高橋 和廣	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	木村 秀利	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	原 清一	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	川上 洋一	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
〃	大和田 博	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	堀米 清	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	池田 敏則	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	中山 光幸	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
〃	佐藤 雄三	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	小谷野英勝	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
〃	大沢 俊孝	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	小澤 栄男	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	菊池 忠男	—	○	—	○	○	○	—	○	○	○	○	—	—	—	—	○
〃	神谷 博行	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	神谷 清勝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	角田 洋久	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃 監類	半田 實	—	○	—	○	○	×	—	○	○	○	×	—	—	—	—	○
〃 監類	早野 毅	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○

5/1:第166回理事会、6/18:第1回事業運営委員会、7/13:第167回理事会、7/13:第66回組合会、7/24:第2回事業運営委員会、9/20:第3回事業運営委員会、9/25:第168回理事会、10/15:臨時事業運営委員会、11/2:第4回事業運営委員会、11/13:第5回事業運営委員会、12/11:第6回事業運営委員会、12/18:第169回理事会、1/17:第170回理事会、2/13:第171回理事会、3/7:第172回理事会、3/19:第67回組合会

## 関東鍍金工業厚生年金基金

### ●理事会

氏名	4/5	8/30	12/19	2/8
大村 功作	○	○	○	○
姫野 正弘	○	○	○	○
小橋 秀壽	×	○	×	○
川上 洋一	×	○	×	○
間部健太郎	○	○	○	○
石川 進造	○	○	○	○
中村 光幸	×	○	○	○
木下 健次	○	×	×	○
木村 秀利	○	○	○	○
小倉 芳夫	○	×	×	×
内藤 雅文	×	×	×	×
篠根 健一	×	○	○	○
石川 和男	×	×	×	○
池田 敏則	○	○	○	○
安斎 克茂	○	○	○	×
石井 英三	○	○	○	○

### ●代議員会

氏名	9/6	2/8
大村 功作	○	○
姫野 正弘	○	○
小橋 秀壽	○	○
川上 洋一	○	○
間部健太郎	○	×
石川 進造	×	○
中村 光幸	○	○
木下 健次	○	○
木村 秀利	○	○
小倉 芳夫	×	×
内藤 雅文	○	×
篠根 健一	○	○
石川 和男	○	○
池田 敏則	○	○
安斎 克茂	○	○
石井 英三	○	○
志田 篤紀	○	○
池谷 純一	○	×
大和田 博	○	○
菊池 忠男	○	○
岩井 春治	○	×
田中 浩	○	○
山崎 五郎	○	×
吉田 勇	○	×
石橋 功	×	×
田中 秀和	○	○
藤田 直人	×	×
大沢 俊孝	○	○
小嶋 撰郎	○	○
細井 碧	○	○
鳩宿 守	○	×
酒巻 正明	×	×
藤田 嘉雄	○	○
由田 猛	○	○

## 大村理事長日誌



### 5月

1日(水)正副理事長会  
2日(木)有トヨダ電鍍お通夜  
8日(水)顧問・相談役会、正副理事長会  
理事会

9日(木)全鍍連常任理事会・岸賞選考委員会  
10日(金)城南連合支部総代会  
11日(土)公防協組運営委員会  
15日(水)城南支部総会  
16日(木)事務局打合せ、健保組合運営委員会  
17日(金)向島支部総会  
18日(土)愛知県組合70周年祝賀会  
21日(火)埼玉県組合総会  
22日(水)葛飾支部総会  
23日(木)ME T E C 土壤汚染対策講習会  
24日(金)正副理事長会、総代会  
26日(日)健保バスハイク  
27日(月)事務局打合せ  
神奈川組合総会  
28日(火)永田家お通夜  
29日(水)全鍍連常任理事会・理事会・総会

## ～組合・関連団体行事予定～

7月3日(水)正副理事長会、理事会  
7月6日(土)技能教育委員会・技能検定  
課題説明会  
7月7日(日)本部主催ゴルフ大会  
7月9日(火)全鍍連国際委員会  
7月10日(水)環境委員会  
全鍍連環境対策委員会  
7月11日(木)全鍍連広報委員会  
7月16日(火)総財務委員会  
7月17日(水)技能教育委員会技能検定  
実技試験リハーサル  
全鍍連近代化推進委員会  
7月18日(木)健保組合理事会・組合会  
7月20日(日)大田支部花火納涼会  
7月25日(木)HP特別委員会

7月27・28日(土・日)  
技能検定実技試験  
8月1日(木)正副理事長会  
8月22日(木)全鍍連技術委員会  
9月3日(火)環境委員会  
9月6日(金)監事会  
9月11日(水)正副理事長会、合同役員会  
顧問・相談役会  
10月1日(火)環境委員会  
10月5日(土)訓練校卒業生フォローアップ  
講演会・懇談会  
10月9日(水)全鍍連近代化推進委員会  
10月10日(木)全鍍連広報委員会  
10月15日(火)訓練校工場見学  
10月16日(水)正副理事長会

# けんぽのお知らせ

関東めっき健康保険組合

TEL 03-3813-5916

№.30 2002.6

## 成人病健診・人間ドック・脳ドックのご案内

関東地区 76ヶ所の契約機関で受けられます。

当健保組合は健診に大きな力を注ぎ、費用の補助など、受けやすい環境づくりを進めています。一年に一度の健康チェックを必ず受けましょう。

### ◎ 対象者及び費用負担



種別	健診対象者	組合負担額(平均)	受診者負担額
成人病健診 (C・D検査)	被保険者及び 被扶養配偶者	20,000円	2,000円
人間ドック	被保険者及び 被扶養配偶者	日帰り 33,000円 1泊 43,000円	10,000円 20,000円
脳ドック	50歳以上の被保 険者及び被扶養者	定額15,000円補助	平均15,000円
骨粗鬆症健診	女子被保険者及び 女子被扶養配偶者	定額 3,150円補助	平均 0円

### ◎ 検査項目

項目	成人病健診	人間ドック	脳ドック	項目	成人病健診	人間ドック	脳ドック
問診	○	○	○	胸部X線検査	○	○	
身体計測	○	○		胃部X線検査	○	○	
視力検査	○	○		心電図検査	○	○	
理学的検査	○	○		肺機能検査		○	
血圧検査	○	○		聴力検査	○	○	
尿検査	○	○		眼底検査		○	
便検査	○	○		腹部超音波検査		○	
血液学検査	○	○		頭部MRI, MRA			○
血清検査		○		婦人科(希望者)	○	○	
生化学検査	○	○		骨粗鬆症(〃)	○	○	

※検査項目は、実施機関によって異なる場合があります。

**成人病健診、人間ドックの他に、16ヶ所の契約機関で脳ドックを受診できます。**

**契約機関及び健診手順につきましては、機関紙「めっきけんぽ」6月号をご覧くださいか  
健保組合までお問い合わせください。**

# 7月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～16:40 B:16:50～19:30 C:16:50～20:20)				
日	曜	時	科目	内 容(予 定)
2	火	A	腐食防食② (電気化学)	めっきの腐食と耐食性、貴金属と卑金属、陽極腐食等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	亜鉛・亜鉛合金めっき② (めっき法)	シアン浴(高濃度浴, 低濃度浴)成分とめっき条件、管理要点等 三明化成機 鈴木昭一
5	金	A	めっき設備① (生産工学概論)	溶剤洗浄, アルカリ加温洗浄, 電解洗浄, 酸洗浄設備、めっき の前処理設備。 小暮技術士事務所 小暮秀夫
		B	めっき設備② (生産工学概論)	手動自動めっき設備の種類と特徴、局所排気装置、水洗設備、 熱交換器、電源。 小暮技術士事務所 小暮秀夫
9	火	A	電解研磨・化学研磨① (金属表面処理法)	電解研磨理論、りん酸—銅電解研磨実験、イオン溶出と電解電 流曲線。 東京都立産業技術研究所 棚木敏幸
		B	粉じん① (安全衛生)	労働安全衛生法、粉じん障害防止規則、粉じん作業と作業管理 等【粉じん作業取扱資格取得科目】星野技術士事務所星野芳明
12	金	A	粉じん② (安全衛生)	研磨の特性、粉じん防止技術、健康管理等。【粉じん作業取扱 資格取得科目】 星野技術士事務所 星野芳明
		B	亜鉛・亜鉛合金めっき③ (めっき法)	低シアン浴とジンケート浴の組成、成分の働き、浴管理の要点 三明化成機 鈴木昭一
16	火	A	電解研磨・化学研磨② (金属表面処理法)	ステンレス鋼の電解研磨、化学研磨の実際(鉄, 銅, ステンレ ス, アルミ) 東京都立産業技術研究所 棚木敏幸
		B	制御機器① (電気工学概論)	自動接点のしくみ、制御用センサー、リレースイッチ、サーマ ルリレー等。 (株)小島鍍金工業所 小島一郎
19	金	A	制御機器② (電気工学概論)	a 接点 b 接点、デジタルとアナログ、液面リレー、タイマー、 モーター制御等。 (株)小島鍍金工業所 小島一郎
		B	亜鉛・亜鉛合金めっき④ (めっき法)	クロメート処理、高耐食性亜鉛めっき等。 三明化成機 鈴木昭一
23	火	A	めっき材料① (材料)	ニッケル、銅、亜鉛の電極、各種界面活性剤の性能と利用法等。 星野技術事務所 星野芳明
		B	引っかけ治具① (めっき法)	引っかけ治具の性能、一次電流分布の管理、等電位面等。 矢部技術事務所 矢部 賢
26	金	A	引っかけ治具② (めっき法)	めっき物の浴内配置、めっき厚さ分布、治具の通電接点等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	めっき材料② (材料)	キレート剤の種類と構造、金属表面技術としてのキレート剤の 利用と応用等。 星野技術士事務所 星野芳明
30	火		生産実技 9:00～17:00	技能教育委員, 環研

<随想>

## 「紫陽花で、私の想いが」

理事長 大村功作



紫陽花が、霧雨に濡れ、日毎に紫の深まる季節。また、初夏の風が緑のけやきをさわやかに吹き抜ける今日この頃、私は、ふと、取り巻く環境の中で、様々な想いにかられることがある。

現実を直視すると、最悪期は脱したと言われているが、長期化している複合不況の波は、一向に静まることなく続いている。また、業界を取り巻く経営環境は産業の空洞化の影響を大きく受け、受注量の大幅な減少、加工単価の値下げ要求などに加え、環境規制問題や産業廃棄物や土壌汚染の処理、処分問題など、様々な現実の厳しい問題に直面している。

この状況は、淡い紫や緑から、白、黄、淡紅、茶褐色へと変わり、ぬれたような冷たいかげりがあって、あやしいまでの美しさを見せる反面、梅雨どきのわびしさをたたえている紫陽花のようである。

私は、私自信にふかかる様々な試練や困難に直面するとき、或る想いが脳裏をかすめる。

かけ足で過ぎ去った春、新しい門出。再出発を期して人は胸をはずませた。はつらつとしたフレッシュマンの希望あふれる言動。見ていて大変気持ちが良い。「どのようなことにも挑戦する」「くじけることなく夢を実現する」この新鮮な決意を、いつまで持ち続けることができるのか。人生の”新人”であるなしに、かかわらず、この命題を解くことが、充実した人生を築き上げるカギとなるのではないかと思う。

米国の故ケネディ大統領をして、「最も敬愛する日本人」と言わしめた米沢藩主・上杉鷹山。その生き方には、”持続”の大切さを物語る数々の話がある。彼は、九州の小藩である秋月家から、上杉家の養子となる。そして、わずか17歳で、大藩を継ぎ、その2年後、江戸から米沢に初めて入国した。時恰も、藩政の失政から、多くの農民が流出、村々は荒れ放題であった。

鷹山は、心痛めながら、駕籠(カゴ)の中で、ふと目にしたのが、まさに消えようとしていた煙草盆の小さな炭火。しかし、それを熱心に吹きたてると、赤々と熾きてきたという。彼は思う。「同じように、この国と民を再興できないことがあるかー。」と、こうして、我が胸に”希望の火”をともした鷹山は、奇跡とも言える藩政改革を粘り強く、成し遂げていったのである。

梅雨晴れのからりと明るい夏空を期待して、日の光も、すこぶる強く、緑は日増しに濃くなっていく。からりとした明るい夏空を期待して一。

前途に谷あり、山ありの人生、胸中に、明日に向かって粘り強く持続して切り拓く確固たる道を歩み抜いて行く一。

そして、梅雨明けも間近かー。もうホタルが飛んでいる。

# 土壌汚染対策法成立公布

「土壌汚染対策法」が、5月22日(水)成立、29日(水)公布された。今後、政省令等で特定有害物質の基準値を定め、平成15年1月1日より施行されることになる。

全鍍連は、かねてから法案作成過程での審議会の傍聴や関係する委員、経済産業省、環境省担当官に対してめっき業界の現状と法制化に対する陳情を行ってきたが、環境大臣への答申に、①土壌汚染を把握するための調査は、操業中の事業場を対象とせず事業場を廃止時とする（但し周辺地下水の汚染が発見された場合は操業中であっても調査）②土壌汚染が把握された場合に汚染原因者に求められる対策は、人の健康被害を防ぐために必要な範囲までとする。具体的には、周辺地下水の飲用利用がない場合は覆土（盛り土等）まで、飲用利用がある場合は汚染土壌の封じ込め（不溶化、鋼矢板等）までとし、必ずしも土壌浄化を行わなくても良い。③調査や対策の在り方について自治体により運用に差が出ないよう国が基準を設ける。④土壌汚染に関する調査及び対策を実施する事業者等に対する支援措置（低利融資、税制上の措置、関連機材の貸付等）、特に中小企業に対する配慮の必要性がある。等が盛り込まれるなど、相当部分について全鍍連の主張が反映されている(5/29全鍍連報告)。なお法律の概要は次の通り。

## 1. 目的

土壌汚染の状況の把握に関する措置及びその汚染による人の健康被害の防止に関する措置を定めること等により、土壌汚染対策の実施を図り、もって国民の健康を保護する。

## 2. 土壌汚染状況調査

土壌汚染の状況を把握するため、汚染の可能性のある土地について、一定の契機をとらえて調査を行う。

(1) 使用が廃止された有害物質使用特定施設に係る工場又は事業場の敷地であった土地の調査

(2) 土壌汚染による健康被害が生ずるおそれがある土地の調査

## 3. 指定区域の指定・台帳の調製

都道府県知事は、土壌の汚染状態が基準に適合しない土地については、その区域を指定区域として指定・公示するとともに、指定区域の台帳を調製し、閲覧に供する。

## 4. 土壌汚染による健康被害の防止措置

(1) 汚染の除去等の措置命令

(2) 汚染の除去等の措置に要した費用の請求

(3) 土地の形質変更の届出及び計画変更命令

5. 指定調査機関 土壌汚染状況調査の信頼性を確保するため、技術的能力を有する調査事業者をその申請により環境大臣が指定調査機関として指定する。

6. 指定支援法人 土壌汚染対策の円滑な推進を図るため、汚染の除去等の措置を講ずる者に対する助成、土壌汚染状況調査等についての助言、普及啓発等の業務を行う指定支援法人に関し、基金の設置等の必要な事項を定める。



## ケディカ QS9000 認証取得

(日刊工業新聞 02.4.29)

ケディカは昨年7月、東北地域のメッキ業界では初めて、米国ピックスリー (GM、フォード、クライスラー) とトラック業界が定める共通の品質保証システム「QS9000」の認証を取得した。認証を得たのは、半導体のメッキ関係。QS9000取得の直接のきっかけは、取引先からの要望だったという。同社は電子部品や精密織器への各種メッキ加工など幅広く表面処理を手がけているが、自動車関連の仕事は比重としてはそれほど高くない。それでも三浦修市社長は「これは絶対にやらなくては」と決断した。自動車関連分野を収益の柱の一つにしたいという強い願望があったからだ。OA・IT関連機器などは試作こそ国内でするものの、量産立ち上げは最初から海外が普通。その点、自動車は海外生産も進んでいるが、市場がある日本での1産もしっかりと行う。

こうした分野にも根を張ることで空洞化を乗り切り、将来の展望を切り開こうどの思いがあった。

## ガラス表面にナノ構造作成

(日本工業新聞 02.5.1)

物質・材料研究機構(理事長・岸輝雄氏)は、アルミニウム表面に酸化膜を付け耐食性を高める「陽極酸化法」を応用し、ガラス表面にナノ構造を作る技術を開発した。陽極酸化法は、ハチの巣状に微細な縦長の穴をあけられ、その穴に金属やセラミックスを詰め、さまざまな機能を持たせることができるという。膜を透明にした場合には、高効率の光に反応す

る機能デバイスや光触媒が期待できる。透明膜が不要な磁性金属の微細構造では、理論的には1平方インチ(1インチは25.4ミリ)あたり1テラ(1テラは1兆)ビットの高密度磁性材料を作成できるという。

## 環境対応型の表面処理実現

(日刊工業新聞 02.5.2)

ユニゾーンは環境規制が厳しくなる中、地球と自然にやさしい企業経営を実現するため、業界トップクラスの環境対策施設の整備を目指す。新たな表面処理加工を手掛けて業容拡大を図り、環境対応型の生産システムを構築しつつある。

IT関連受注に対応する全自動メッキ装置、機械産業分野の多品種少量に適したハイブリッドメッキ装置を導入。また、既設の総合排水全自動システムに加え、フィルター式排水処理施設を設置し、精密濾過能力を高め、災害時においても有害物質の流出を防ぐ貯蔵タンクを設けた。昨年5月に環境管理・監査の国際規格「ISO14001」の認証取得。研究開発部門を充実し、より環境に配慮した新しい表面処理技術の開発を進める。

## 電解式水質調整装置

(日刊工業新聞 02.5.3)

若宮工業(栃木県河内郡上三川町)は電解式水質調整装置「カシオーブ」を開発した。電気分解を利用し、地下水や工業用水に含まれるシリカ(二酸化ケイ素)を95%以上除去する。処理水を生産設備の冷却水や、空調設備の冷温水に使用すれば、配管内にシリカが堆積しない。熱交換率低下や故障を防ぎ、メンテナンスコストを減らせる。電極数(18-50枚)で4タイプあり、価格は400万-2000万円。半導体メーカーや精密機械メーカーなどに年間120台の販売を見込んでいる。



### 微生物利用し金属成分採取

(日本工業新聞 02.5.9)

日鉱金属は8日、バイオテクノロジーを活用した鉱山開発技術の研究に着手したことを明らかにした。鉱床に酸溶液を注入し、銅などの金属成分を採取するのに微生物を利用するもので、鉱石を掘削する従来法と比べ設備投資・操業コストが安くつき、環境負荷も少ないという。十年後の実用化を目指す、山元での製錬も可能になることから、日本の資源確保にも貢献できるとみている。

### レーザー照射で無電界銅メッキ

(日本工業新聞 02.5.13)

神奈川大学工学部の佐藤裕一教授の研究グループは、メッキ液に浸した有機化合物の液晶ポリマー(LCP)フィルム上に、レーザーを照射し、無電界銅メッキを行う技術を開発した。すでに高耐熱性樹脂のポリイミド上への金メッキを実証しているが、今回次世代の高機能ポリマーとして注目を集める液晶ポリマー上でもレーザーメッキできることを証明した。携帯電話機や小型情報家電のフレキシブルプリント基板などの不良品を簡単に補修するなどの応用が考えられるという。

### 重金属イオン 繰返し吸脱着

(日刊工業新聞 02.5.14)

東京電機大学工学部環境物質化学科の鈴木隆之助教授は、水溶液中の鉛や亜鉛などの重金属イオンを繰返し吸脱着できる高分子ゲルを開発した。同ゲルは、重金属イオンの吸脱着に伴って色が青、黄、白と変化する。こうした特性から、メッキ工程後の重金属イオンを含んだ廃水処理に最適なほか、重金属イオンセンサーなどへの応用も可能。関連技術について、技術移転機構(TLO)の東京電機大・産官学交流センターが特許出願し、同センターを窓口に関産業界各方面での実用化を促していく。

### 荏原ユーージライト メッキ装置で攻勢

(日刊工業新聞 02.6.5)

メッキ装置の開発を手がける荏原ユーージライト(台東区、粕谷佳允社長)は、02年度、一挙に10-15種類の新商品を市場投入する。01年度はIT不況の影響で半導体リードフレーム関連などの売り上げが大きく落ち込んだが、4月以降客の引き合い件数が増え始め「底離れが近付いた」(鈴木成生常務)と判断。薄型化、微細加工など技術革新に沿った新商品を加速度的に投入することで02年度、前年度比20%増以上の80億円程度の売上高を狙う。

荏原ユーージの売上高は00年度84億円に対し、01年度は64億円と大幅に落ち込んだ。IT関連の不況の影響でICやリードフレーム系の売り上げが30-50%減と大幅ダウンした。しかし、最近ではユーザーであるメッキ業界から引き合いが急増。電子部品や半導体など関連業界でも受注が増え、景気回復のシグナルが出ていることから底離れ時期が近いと判断し、新商品を大量に市場投入する。メッキ業界は中小企業が大半を占める。大手の中国シフトなど逆風環境の中で生き残りを図るため「高付加価値の新商品開発に必死になっている」(同)。こうしたユーザー企業と共同で、材料研究まで入った独自の高付加価値型商品を急ぐ。

### 高容量のリチウム電池負極開発

(日刊工業新聞 02.6.5)

大和化成研究所(神戸市)は兵庫県立工業技術センターの園田司主任研究員、産業技術総合研究所関西センターの境哲男電池システム連携研究体長と共同で、スズ合金メッキによるリチウム電池負極を開発した。炭素負極と比べ高容量で、製造工程が短縮されるため大幅なコストダウンが可能になる。連続製造方法を確立し、02年度中にサンプル出荷を始める。

## 本所支部の巻

# 「生活バリューモール アルカキット錦糸町」

広報平成9年5月号で錦糸町駅北口再開発事業として、「アルカタワーズ」を紹介しましたが、今回は、その中の旧錦糸町そごうビルが新しく『生活バリューモール アルカキット錦糸町』として誕生したことを紹介します。アルカタワーズのシンボルタワー的な存在として、平成14年3月29日(金)、『生活バリューモール』という全く新しいコンセプトのもとリニューアルオープンしました。

『生活バリューモール』とは、「スーパーマーケット」「大型専門店」「ファッションメーカー直営ショップ」「アミューズメント」などのバラエティに富んだ業態の人気ショップを複合させた全く新しいスタイルのショッピングセンターです。

生活バリューモール



アルカキット錦糸町



スーパーマーケットでは「クイーンズ伊勢丹」(地下1階)、大型専門店では、ベビー用品の「アカチャンホンポ」(5階)、輸入家具の「OKAY」(6階)、雑貨店では「ザ・ダイソー100円ショップ」

(7階)が出店します。また、1階から4階までは「オンワード樫山」「ワールド」「イトキン」などの大手ファッションメーカーやアミューズメントの「SEGA WORLD」、眼鏡店「Zoff(ゾフ)」、日本最大級の「ドコモショップ」など魅力溢れる店舗で構成。8階から10階までは「新星堂」、「新星堂スポーツ」、「エディ・バウアー」、「くまざわ書店」、「有賀園ゴルフ」、レストラン店舗などバラエティに富んだ店舗が軒を連ねます。

環境面では、女性やお子様にも快適にショッピングを楽しんでいただけるよう、エスカレーター周りや通路などはゆったりと広めにとっており、シンプルな空間を演出しています。

『生活バリューモールアルカキット錦糸町』は地元の方々はもちろんのこと、ビジネスマンやOL、学生などの幅広い層の方々に喜ばれています。

### ◆ネーミングコンセプト

アルカキット：JR錦糸町駅北口再開発街区の総称「アルカタワーズ」の「アルカ」と「キット」と組合せた造語。

アルカ：「アルカディア(理想郷)」「Active Renovations for Citizens Advantage」「市民に有益な生きた再開発」を表わす。

キット：Kinshicho Individual(個性的な)Tower(価格価値、商品的価値、様々なショ

ップが組み合わさって、お客様に各人の個性に合わせたショッピングを提供する施設)

日本語の「きっと」(「“きっと” いいモノが見つかる。“きっと” 素敵なコトがある」の“きっと”)

◆営業時間:物販=10:00~20:00

レストラン街=11:00~22:00※一部営業時間の異なる店舗もある。

## 日本鍍金材料協組總會 新理事長に間宮氏

日本鍍金材料協同組合は5月16日(木)午後3時から上野精養軒で通常総会を開催、事業報告、決算報告等を承認するとともに役員改選を行い、新しい理事・監事を選出した。



その後、5月28日(火)午後3時から茅場町の組合会議室で第1回理事会を開き、次の通り役員を選任した。

理事長	間宮 勝	(株)マミヤ
専務理事	長谷川光太郎	長谷光(株)
常務理事	小松 康宏	キクヤピーエム(株)
〃	倉田 武始	森幸鍍金材料(株)
〃	鈴木 厚生	伸栄化学産業(株)
〃	大原 啓司	大原研材(株)
〃	柳下 幸一	(株)三進製作所
理事	木村 幸平	横浜木村鍍研材(株)
〃	小山 六男	栄和化工(株)
〃	岩川 重雄	室町金属(株)
〃	上村 福子	(株)上 村
〃	村松 泰直	(株)三 松
〃	水守 康平	(株)イセヤマ
監事	関根 喜一	(株)関根商店
〃	木村 壽	三明化成(株)

## 平成 14 年度全国めっき技術コンクール

主催 全国鍍金工業組合連合会  
 後援 (予定)厚生労働省、中央職業能力開発協会、日刊工業新聞社  
 種目 ①研磨—装飾クロムめっき部門  
 ②装飾クロムめっき部門\*  
 ③亜鉛めっき部門\*  
 \*無研磨  
 参加料 1部門1口につき1万円(1部門につき3口まで応募可)  
 申込〆切 平成14年7月26日(金)  
 出品〆切 平成14年8月9日(金)  
 入賞発表&表彰式 平成14年11月28日全  
 鍍連第40回全国大会にて  
 厚生労働大臣賞  
 厚生労働省職業能力開発局長賞  
 中央職業能力開発協会会長賞  
 日刊工業新聞社賞  
 全国鍍金工業組合連合会会長賞  
 問合せ 全鍍連事務局/佐藤、山本  
 TEL03-3433-3855

---

---

## 帝釈天初詣によって膨らむ私の連想

組合相談役 板橋 利次 (城西支部)



帝釈天を参詣の後、帝釈天縁起の小冊子を買って求めました。いろいろと参考になる内容でしたが、何故、柴又に帝釈天が存在するのか、又何故 1629 年の開山なのかの説明が全くありません。私は帝釈天と年号に興味を持ち連想は連想を産んでゆきました。

印度の太古のバラモン教の最強の武勇の神インドラは佛教界に召されて帝釈天と名乗り、遙々、日本えもやってきました。佛教には四天王と称する四体の神が居り、最高位の如来様を守護して居られる。即ち、持国天、増長天、広目天、多聞天が東西南北に睨みをきかして邪鬼から護って、おられます。

1603 年、徳川家康は天下を平定して江戸に幕府を開きましたが 1616 年には病を得て亡くなります。当時の三大将軍家光公は信心深く、秀忠公の二子でありながら朱子学などの講義を受け家康公には大変可愛がられたとか、其の家康公の遺徳を偲んで、又徳川幕府の威光を内外に示す意味を含めて日光の地に東照宮を造営することとなり、陽明門の完成をみたのが 1624 年でした。当時、家光公の認識の中には二十年以上前の事件とは云え、明智光秀の娘でありながら細川忠興の妻として迎えられながらもキリシタンの信仰厚く洗礼を受けてガラシヤと名乗り関ヶ原の合戦では石田三成の挙兵に際して大坂方につくことを拒んで自害、享年三十六才だった話や、キリシタン大名と云われた茶人でも名高い高山右近が播磨城主の地位まで投げ捨て信仰に生きて為に国外追放の浮目となり南溟の果てのマニラで病死したのも彼からみれば未だ十年も経っていない生々しい事件だったのです。キリシタンの信仰は長崎を始め各地に拡がり幕府はこれの鎮圧に躍起になっていました。何しろキリシタンは幕府の意図したマリア像の踏み絵に足を乗せることをせず次々と処刑される様を家光公は自分自身、佛教に対する信仰心を、持っていることに充分、自身を持っていましたが、キリスト教徒の進行の深さには驚きと恐れを感じると共にこれが対策に頭を悩ましていました。家光公は 1630 年代にはキリスト教関係の洋書の輸入を禁じたり、島原の乱の鎮圧に乗り出したり、1639 年には遂に鎖国令まで発することになりました。1627 年、幕府と京都の僧侶との間に紫衣事件が起きています。皇室より恒例によって京都大徳寺、妙心寺の四名の僧侶はこれに異を唱えて幕府と抗争を始めましたが利あらず、それぞれに処分されました、何んと 1629 年のことでした。この僧侶の中に有名な沢庵和尚が居り、彼も出羽国に配流されましたが、後に家光の帰依を受けて品川宿に東海寺を開きました。家光公は強力な政治家でもあったが前述のように宗教上の気配りも疎かにしなかったようです。家光公は幕府の安定を願ふと共に自らの心の安定を求めて思索を練ったのでした。それは江戸城から見て東方に位置する (現実には東北ですが) 強力な守護神、持国天を安置することでした。持国天とは実は帝釈天の化身なのです。家光公はこう云ふことを良く弁えていた節があり、公の切なる願いは密かに達成され、自らの名は何処にも現われてはきませんが公はそれを良しとしたのでしょう。そして日蓮宗の日忠上人により開山されました。東照宮の建立から五年後の 1629 年家光公の願いは又一つ成就しました。

帝釈天様は願ひ事を良く叶えてくれると言う事で庶民の人気を集めて大変賑わったとのこと

---

---

です。帝釈天の正面の門を二天門と称するのですが、門の両側に増長天と広目天が配置されています。それで二天門と呼ばれているのですが、南を護る増長天、西を護る広目天と四天王のうちの三体が柴又の地に安置されている訳ですが、誰かが家光公の意中を組んでの事か、乃至は公の意向が働いて二天門を建立されたのかは定かではありません。では四天王のうちの多聞天は……

探してみました。ありました。江戸城のお膝元の北にありました。関ヶ原の合戦の五年前の1595年に家康公は日蓮宗の池上本門寺より日愷上人を招き、江戸城の北の守護神として小高い森の中に毘沙門天を開山し創建されたのでした。毘沙門天の別の名が多聞天なのです。其の地とは現在の新宿区の神楽坂であり、今日も立派な毘沙門天が鎮座しています。1595年と云えば豊臣秀吉が伏見城を築き桃山時代の絶頂期に在り家康は既に秀吉の時代の衰退を見越し着々と徳川家の構想を練っていた節がいくつかあり、そのうちの一つとして北方で一番脅威を感じた伊達政宗を想定していたのでしょうか。

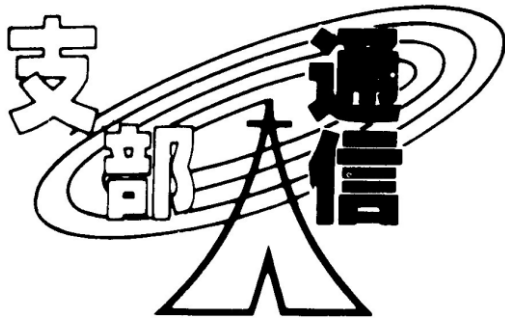
一つ疑問が残りました。それは帝釈天の開山も毘沙門天の開山も、どちらも日蓮宗の上人によって成ったのは偶然だったのでしょうか、それとも徳川家いや家康公と家光公との共通の概念があったのでしょうか、共通の概念と云えば四天王の信仰は初代家康公から三代家光公辺りまでの信仰が対照であったのかも知れません。又帝釈天が持国寺であり毘沙門天が多聞天でありながら持国天も多聞天も表面に表れてこないのは如来様を護るシークレットサービスとして傍の存在だからなのでありましょう。 終わり。2001年1月

---

## くらしに役立つめっき NHKラジオで放送

くらしの中でめっき製品が如何に役立っているか、そうしたことがラジオ放送された。5月20日午前9時から10時間、ラジオNHK第1放送で「くらしに役立つめっきの知識」と題して、武蔵工業大学・星野重夫教授が、装飾めっきから機能めっきに至るめっき技術が日常生活から最先端分野で如何に役立っているかを解説した。同放送は午前中の番組「いきいき倶楽部」の中の「くらしセンスアップ」の中で放送されたもので、青木アナウンサーが開口一番「私たちアナウンサーは以前めっきが剥げると言ってお叱りを受けたことがあるが、いまめっきは剥げない時代ですね」と問い掛け、星野教授が「そうですね、いまの若い人にめっきが剥げるとはどういうことかを聞いても知らないですね。経験したことがない

ので理解できない。この言葉は死語になってくると思う」と説明。前半は、代表的なめっきの目的について、装飾、防錆、耐摩耗であったが、エレクトロニクスの発展に伴い機能性めっきに発展し、導電性、絶縁性、磁性、半田付け性、殺菌性など色々な機能に多様化しているめっき分野を解説した。後半では、リスナーから、どうしてめっきができるのか、アクセサリ等めっき製品の手入れ方法は、再めっき方法など、寄せられた質問に答える形で進められた。最後に「いま注目される最先端は？」との問いに、「めっきの利用分野に電鍍があり、それがナノテクノロジー分野で注目されている。血管内に入るマイクロマシンの部品にそのめっき技術が使われている」など、めっきの重要性を解説された。



## ■城東支部

### 総会開催

城東支部(八幡順一支部長)は5月15日(水)午後6時から江戸川グリーンパレスで定時総会を開催した。

長谷川寿紀会計の司会により出席者25名、委任状15名で総会が成立する旨の報告があった。遠藤清孝副支部長の開会の挨拶の後、八幡順一支部長は「毎年支部員の脱退が続き、支部の収入も減少し、いくつか支部行事を割愛させていただいた。江戸川産業テクノフェアは青年部会の協力を頂いてめっきのPRを行った。本総会では役員改選はないが、本部の出資証券について議案に上げているのでご協力をお願い申し上げます」と挨拶をした。

議長に梶原信孝相談役を選出して議事に入り、平成13年度事業報告を新井嘉喜雄総務、同会計報告を前野弘行会計、会計監査報告を西田嘉朗監査役が行い、承認された。続いて八幡支部長が本部の出資証券について「この不況の中で組合員数が減少しており、本

部は出資金の返還とその減資分を吸収してきた。毎年約700万円の減資となり、平成13年度も770万円、1928口の減資となり、本部としても吸収が難しいということで、組合員のみなさんに負担をお願いしたいと理事会で決まり、城東支部として164口、約65万円の割当がきた。最終的に3月末で締めて5月の総代会までに受入先を決めてほしいという総財務委員会の依頼で時間的余裕がなく、役員に相談したところ今回は役員が出資することにしたが、来年度も同じような依頼があった場合、支部のみなさんに均等に2口8000円をお願いしたい。本部も年内に資金の在り方を検討することにしており、来年出資金のお願いがあるかどうかかわからないが、もし同じような依頼があった時は2口の出資をお願いしたい」と説明があり、承認された。以上で議事を終了、新地区部長の紹介の後、来賓の姫野正弘副理事長の挨拶があり、総会を終了した。引き続き二部懇親会に移り、八幡支部長の挨拶の後、佐竹弘監事の乾杯音頭で祝宴に入った。



## ■城西支部

### 総会開催

城西支部(元井民夫支部長)は5月17日(金)午後6時からサンシャインシティプリンスホテルで第36回定期総会を開催した。

高橋達也総務委員長の司会により、津田智宗副支部長が開会の挨拶をした。

元井民夫支部長は、「雨の中、支部組合員の皆様、諸先輩の皆様、何かとお忙しいなか第36回の総会に出席を頂き厚くお礼申し上げます。日本の経済と政治、業界を取り巻く環境は私が経験したことのない大変な1年であったが、支部組合員の皆様の絶大なご支援とご協力を頂き何とか1年を過ごし、皆様に支部活動を報告する総会を迎えることができたことを心より感謝申し上げます。私が支部長に就任してこの1年で支部組合員6社が廃業、倒産した。日本の製造業の構造的なものは、新聞のアンケートによるとまだ中国などに進出していない67%の会社が中国など海外生産を検討しているということを知ると不安にな

ってくる。このようなことを踏まえて今後機会あるごとに皆様のご意見や発案などを会報に提供して頂き、我々生き残る対策を立てて行きたい。また、1年前に病に倒れた先輩の支部長や本部副理事長を務めた山口雄治さんが退院し自宅で療養しながら仕事をされていることを報告したい」と挨拶をした。

議長に元井支部長が就任し議事に入った。平成13年度事業報告を津田智宗副支部長、同会計報告を田中秀和会計、会計監査報告を久保和克監事が行い承認された。平成14年度事業計画を小橋秀一副支部長、同収支予算案を田中秀和会計が説明し原案通り承認された。来賓として由田猛副理事長、小橋秀壽連合共済会会長から祝辞があり、小橋副支部長の閉会の辞で総会を終了。引き続き二部懇親会は石田義勝親睦委員長の司会により、元井支部長の挨拶の後、溝口幸範顧問の乾杯音頭で祝宴に入った。来賓の下村博文衆院議員、田中晃三都議会議員、織田拓郎都議会議員から挨拶があり、菊地利幸青年部会長の中締め、柏村一志顧問の閉会の辞までなごやかに進められた。



## ■城南連合支部

### 総 代 会

城南連合支部（城南支部・中澤敏明支部長、品川支部・藤田直人支部長、大田支部・志田和陽支部長）は5月10日（金）午後6時から五反田のゆうぼうとで第29回総代会を開催した。

小倉芳夫事務局長の司会により、総代総数31名中、出席者25名、委任状4名をもって総代会成立の報告があった。続いて議長に木村秀利常任理事を選出して議事に入った。

平成13年度事業報告	若山 満事業部長
平成13年度決算報告	小倉芳夫事務局長
監査報告	大坂光一監査役
平成14年度事業計画	若山 満事業部長
平成14年度予算案	小倉芳夫事務局長

以上の各議案を承認したあと、その他として、小倉事務局長から、①城南連合支部が30周年を迎え、今秋、皆さんが楽しく集まれるような記念行事を開催したい。そのための予算も盛り込んでおりご協力をお願いしたい。②連合支部の規約に慶弔金の留保が30万円を割った時は慶弔拠出金を徴収させて頂くという規定があり、本年度実施させて頂きたいと説明があり、異議なく承認された。

来賓として、大村功作理事長が挨拶し、①脱退者出資証券の引受けに対するお礼、②都環境確保条例への対応、③中国工場視察概要など最近の組合活動の状況について説明があった。最後に中澤敏明城南支部長が閉会の挨拶をして総代会を終了した。

引き続き、川上洋一副理事長の乾杯音頭で懇親会に入り、大坂光一監査役の中締めまでなごやかな進められた。





## ■城南支部

### 第 29 回定期総会

城南第 1 支部から城南支部に支部名変更後、初の第 29 回定期総会が 5 月 15 日「ゆうぼうと菖蒲の間」にて行われた。

小谷野英勝副支部長の開会の挨拶、続いて中澤敏明支部長の挨拶にて始まった。

木村秀利常任理事の議長にて、若山満事業部長より、第 1 号議案平成 13 年度事業報告の件、藤田嘉雄会計より第 2 号議案平成 13 年度決算報告の件、大坂光一監事より第 3 号議案監査報告の件、若山事業部長より第 4 号議案平成 14 年度事業計画案の件、藤田会計より第 5 号議案平成 14 年度予算案の件、第 6 号議案その他（質問等）の議案審議が滞りなく行われた。

大村功作理事長より来賓挨拶をしていただいた。その後伏原暉幸副支部長の閉会の挨拶により無事万端終了した。引き続き懇親会が、若山事業部長の司会により始まった。和気藹々各自親交を深めていく中で会は大坂監事の中締めの挨拶で終わった。（大坂厚士）



## ■城北青年部会

### 定時総会開催

城北支部青年部会（佐藤賢一会長）は去る 3 月 22 日平成 13 年度定時総会を開催した。今期は開催場所を赤坂の東京全日空ホテルとし、例年と違う趣向を試みた。

司会による開会の辞の後、篠根健一城北支部長の挨拶と激励を賜わり、青年部一同の団結と精力的な活動を促した。議案報告は問題なく承認を得て、総会を終了した。

懇親会では会長、支部長の挨拶に続き、青年部OBの海野吉正氏が乾杯の音頭をとって頂いた。海野氏のユーモアとスパイスの効いたトークに一同大いに笑わせて頂いた。東京全日空ホテル自慢の中華料理を肴に会場は大いに盛り上がりを見せ、宴会終了まで声が絶えることはなかった。今期の活動を締め括るにふさわしい一夜であった。（文・宍戸裕）



## ■大田支部

### 第 29 回総会

大田支部(志田和陽支部長)は、5月17日(金)午後6時30分から羽田空港ビル「ギャラリー」6階「ギャラクシーホール」で第29回定時総会を開催した。

入内島正悟副事業部長の司会により、葛西康二副支部長の開会挨拶の後、志田和陽支部長は「雨の中、お集まり頂き感謝申し上げます。私が支部長を拝命してから1年が経過した。昨年は支部名の変更や新しい行事を行ったが、みなさんのご協力頂き円滑に運営出来たことをお礼申し上げます。長引く不況がいつまで続くかわからないが、我々大田支部は結束してこれからも頑張っていきたい。我々は単一の業界なので内部対立もないし、機会があればこうして集まって懇親を深めることができる。工業組合の本来の趣旨は酒を飲んで大騒ぎをすることではないらしいが、私はあえて懇親の企

画を続けていきたい。これから組合員が減少していくと言われているが、大田支部は皆で団結して事業展開をしていきたい。宜しく願い申し上げます」と挨拶をした。

議長に大沢俊孝前支部長を選出して議事に入り、(1)平成13年度事業報告を佐藤富幸事業部長、(2)同決算報告を江原一美会計、(3)会計監査報告を志田篤紀監査が行い、承認された。続いて(4)平成14年度事業計画案、(5)同予算案が原案通り承認された。(6)環境確保都条例(化学物質適正管理の届出について)を川上洋一本部副理事長、(7)出資証券(脱退事業所分の支部引受割当てについて)を志田支部長が説明、承認を得て、議事を終了した。

来賓として森田健作衆議院議員、中西一善都議会議員から挨拶があり、池田潤一副支部長の閉会の挨拶で総会を終了した。

引き続き懇親会に移り、石川貞行副事業部長の司会で開会し、内藤雅文常任理事の音頭で乾杯した。懇親会は、金子俊明氏の閉会の挨拶までなごやかに進められた。



## ■足立支部

### 定時総会開催

足立支部(小澤栄男支部長)は5月16日(木)午後6時から北千住の勇駒で定時総会を開催した。

石川和男副支部長の司会により、小澤栄男支部長は「今日は雨が心配されたが、何とか降らずにすんだが、景気もこの天気と同じように暑かったり寒かったり、少し忙しくなったかと思ったら直にひまになったりする状態が続いている。大変厳しい経営環境であるが、公防協の城南処理センターの運営もこの景気の悪さを反映して廃液の集荷が思うように伸びず、赤字を出している。支部のみなさんには過日出資金のご負担を頂き心苦しく思っているが、本部には来年度以降このような負担を行わないよう強く申し入れた。環境問題では環境確保条例で届出を行わなければならないが、6月5日、12日、梅田鍍金さんで勉強会を行うので、都合の良い日に参加して頂きたい。昨日も永田副支部長と2人で区環境課

へ行き、我々は本部の指導でやりますからと話をしてきた。区環境課も取り敢えず書類を出して下さいという話で、全員が出せるようお願いしたい。自分で書ける人はよいが、分からない人は梅田鍍金さんに教えて頂くようお願いしたい。これから総会に入るが、スムーズな議案審議にご協力をお願いしたい」と挨拶をした。

議長に野澤宗市顧問を選出し、議長はまず出席者21名、委任状14名をもって有効に総会が成立することを報告、議案審議に入った。

平成13年度事業報告 石川芳英総務  
同会計報告 松井直巳会計  
会計監査報告 菊池浩司監事  
平成14年度事業計画 磯村博明総務  
同予算案 内山 昇会計

各議案が原案通り承認され、永田一雄副支部長の閉会の辞で総会を終了した。引き続き細井碧副支部長の司会で懇親会に移り、小澤支部長の挨拶の後、来賓として小島一浩青年部会長の挨拶があり、永田吉輝常任理事の乾杯音頭で祝宴に入った。懇親会は橋本英雄副支部長の中締めまでなごやかに進められた。



## ■葛飾支部

### 通常総会開催

葛飾支部(神谷博行支部長)は5月22日(水)午後6時から青戸のテクノプラザかつしかで通常総会を開催した。

小倉攻一副支部長が司会を務め、支部員69社中、出席32社、委任状35社により総会が成立することを報告した。西谷幸一副支部長の開会の挨拶の後、神谷博行支部長は「1年支部長の大役を勤めさせて頂き、なんとか無事に13年度支部運営を行うことが出来たのも皆様のご協力と感謝申し上げる。バブル崩壊以来10数年を迎えて、いまだ景気回復の兆しもなく、空洞化も進んでいる。中国に生産拠点を持つ衣類販売のユニクロが売上げが落ち込み、社長交代が行われたが、日本国内ではシンプルで安いだけでは飽きられた様だ。我々業界の得意先も中国へ進出しており、日本の技術を今一度見直して頂き、国内生産をして頂きたいと思う。公防協組は廃液処理月

200キロリットルの予算に対し180キロリットルの実績で約10%落ち込み、その上減価償却を上げられた為今期は赤字となった。そのため営業範囲を各地方まで広げて努力をしている。環境確保条例の届出については、書き方が分からない場合、本部環研志賀所長に電話で聞いてほしい。計算が難しく書けない方は使用量のところに購入量を書いて提出して

ほしい。土壌汚染については東京都条例が先行していたが、国の法律も可決、成立した。東京都労働局たんぼぼ計画が始まり、労働保険に入っていない事業所と従業員50名以上のところを除く48社で行うが、支部事業の中にも取り入れ加入出来なかった方々にも何か恩恵が得られるよう考えていきたい」と挨拶をした。議長に関根利定相談役を選出して議事に入った。事業報告を広根淳一副支部長、決算報告を伊藤精二副支部長、監査報告を岡田亘弘監事を行い、承認された。続いて事業計画案、予算案が原案通り承認可決された。

議事を終了し、中田充彦副支部長の閉会の辞で総会を終了した。引続き二部懇親会が佐藤秀昭副支部長の司会により、神谷支部長挨拶、本部の大村功作理事長の挨拶があり、関根利定相談役の音頭で乾杯した。懇親会は石川進造顧問の中締め、鶴尾安信相談役の大締めまでなごやかに進められた。



## ■向島支部

### 定期総会開催

向島支部(池田敏則支部長)は5月17日(金)午後6時から東京東信用金庫吾嬬支店で定期総会を開催した。

石田昌久副支部長の司会により本日の出席者28名、委任状12名により総会の成立を報告した。向坪昭副支部長の開会の挨拶のあと、池田支部長は「雨の中多数のご出席を頂き感謝申し上げます。私は5年目に入るが、歴代支部長の挨拶で、景気の良い中でも、公害規制が厳しく、商売が儲かっているという言葉聞いたことがないが、いま言えることは非常に厳しいということである。そのうえ都環境確保条例が施行され、化学物質の届出も簡単とはいえないが、それ以上に土壌汚染問題が大変である。その処理に莫大な費用がかかり、やめるにやめられない。昨年3社、2年間で10社やめられ、以前、向島は本部において3番目の企業数であったが、いまは4番に落ちている。支部運営においても厳しい予算状況となっている」と挨拶。

議長に篠崎賢吾相談役を選出して議事に入った。平成13年度事業報告を神谷清勝副支部長、平成13年度決算報告を小篠滋会計、会計監査報告を三田村英二監事平成14年度事業計画を池田敏則支部長平成14年度予算案を仲俣雅行会計が説明しそれぞれ承認された。次に、本部理事1名の推薦について池田支部長から、

「梅本常任理事が本部理事会で副理事長に選任され常任理事の在任期間を私が兼任するというので役員会の承認を頂いたが、本総会で承認を頂きたい。また、本部副理事長は理事定数とは別枠で、理事1名が欠員となっており、本部に推薦しなければならないが、人選については役員会に諮るが、支部長に一任してほしい」と提案、承認された。続いて、環境対策研究会報告(小篠滋会計)、若葉会報告(深田稔会長)があり、梅本喜四郎氏への感謝状贈呈に移った。池田支部長は「梅本氏は昭和60年度から平成13年度までの17年間、支部長を始め役員として支部発展のためにご尽力を頂いた。任期1年を残すが、このたび支部役員を退任することになり、支部顧問に推挙し、感謝状を贈呈したい」と称えて感謝状を贈呈した。来賓として、大村功作理事長、山崎区長、田中邦友区議会副議長、押田功男東京東信金常務理事から挨拶があり、籠利達郎副支部長の閉会の辞で総会を終了した。引き続き二部懇親会は、石崎勝一名誉顧問の乾杯音頭で祝宴に入った。



## ■本所支部

### 総会開催

本所支部(山田英佐夫支部長)は5月10日(金)午後6時30分から錦糸町のロッセプラザで定時総会を開催した。

岡本博司副支部長の司会により、山田英佐夫支部長は「黒須前支部長がもう少し長く続ける予定であったが、諸事情により、昨年8月、急きょ私と交代することになった。その後支部長として本部など色々なところへ出席している。本日は私にとって初めての総会であり、宜しくお願ひ申し上げます。平成14年度についてはみなさんと相談しながら活動していきたい。本部、支部とも色々難しい問題を抱えているが、この中を生き抜いていけば良いことがあるのではないかと期待している。最近そのような兆候が多少とも

見られるようになった。連休前から多少動き出したという人もおり、少しずつでも良い方向に動いてほしいと思う。これから総会に入るが、スムーズな議事運営にご協力をお願い申し上げます」と挨拶をした。

議長に松下巖相談役を選出して議事に入り、平成13年度事業報告を岡本博司副支部長、同決算報告を在間茂雄副支部長、監査報告を馬場昭二監事が行い、承認された。今後の活動方針について山田支部長は「財務状況が悪くなっており、支出の削減を考えていかなければならないが、これからみなさんと顔を合わせる機会を多く作りたい。小さい支部なので顔を合わせて身近な仲間としての支部を目指したい」との説明があった。

来賓として梅本喜四郎副理事長が、副理事長就任を含めて挨拶があり、岡部義一相談役の乾杯音頭で懇親会に入った。



## ■西部支部

### 第 41 回定期総会

西部支部(田代政明支部長)は6月7日(金)午後5時30分から八王子ホテルニューグランドで第41回定期総会を開催した。

山下良司事務局長の司会により出席者26名、委任状10名により総会が成立する旨の報告があった。西原敬一副支部長の開会の挨拶の後、田代政明支部長は「ご多忙の中を多数のご出席をいただき感謝申し上げます。前年度40周年記念行事が、みなさんのご協力により盛大に開催できたことを感謝申し上げます。めっき業界は経済情勢をはじめ環境問題など大変厳しい状況にあるが、そうした中で何とか生き残り策を模索できるような支部活動をしていかなければいけないと考えている。昨日、電話で電子電気関係の会社から中国上海に進出しないかという話がありお断りしたが、改めてめっきが如何に大事な仕事かということを感じた。今後どうやって生き残っていくかが最も大きな課題であるが、それに組合活動

が何らかの貢献をしたいと考えている。何とか明るい未来が開けるよう組合も頑張っていきたい。なお本総会はAブロック担当でこの厳しい中で何とか節約をしてみなさんに負担をかけないように会費なしで開催したことを報告したい」と挨拶をした。

議長に姫野正弘副理事長を選出して議事に入り、平成13年度事業報告(山下事務局長)、同決算報告並びに特別会計決算報告(西原副支部長)、会計監査報告(田中浩監事)、平成14年度事業方針並びに予算案(田代支部長)が原案通り承認され、半田實常任理事の閉会の辞で総会を終了した。

二部懇親会は、田代支部長、姫野副理事長、当番の鈴木清次Aブロック長の挨拶があり、川合誠一顧問の乾杯の発声により懇親会に入った。なごやかな歓談が続く中、アトラクションとして、Las. muchachas(ラス・ムチャヤス)によるフラメンコショーが行われ、情熱的な歌と踊りを観賞しながら楽しい時間を過ごし、山下陽右顧問の中締め、鈴木Aブロック長の閉会の辞で懇親会を終了した。



## ■足立鍍友会

### 総会開催 新会長に高橋利男氏

足立支部（小澤栄男支部長）の青年部組織である足立鍍友会の平成 13 年度総会が5月 24 日吾妻橋のアサヒビール3階にあるラ・フラムに於いておこなわれた。

石川芳英鍍友会相談役の司会により、午後6時35分に開会し、はじめに小島一浩鍍友会会長が「足立区を離れて、総会のためにここまで足を運んでいただいたことに感謝申し上げます。景気はいつこうに回復傾向に向かっていないが、一部の話によれば今年の夏から秋にかけては、回復するのではないかという話も聞かれるようになった。希望を捨てずに頑張りたい。」と挨拶した。続いて、議長選出にあたり、石川和男副支部長が、鍍友会会

員でもあることから議長に選出され、議事が進行した。

事業報告を高橋利男副会長、会計報告並びに監査報告を丸山茂会計監査が報告した。議事の最後に、小島会長より、「次期会長に高橋利男氏を推薦する」とのことで、出席者全員の賛同を得て、高橋氏が新会長に就任した。

続いて、懇親会に移り、橋本孝鍍友会相談役の司会で進行した。まず、高橋新会長が、「若手会員の入会がない現状をふまえて、新規会員の勧誘に全力を尽くす」との挨拶があった。続いて、来賓として、小澤栄男支部長より「環境問題等が深刻になってきているが、組合本部も頑張っているので、応援願いたい」と挨拶があった。その後、乾杯に移り、来賓の松井直巳足立支部会計の発声により懇親会が始まった。なごやかな雰囲気のうちにお開きの時間となり、来賓の豊田金造技能教育委員の締めで閉会した。





## 協組ニュース

平成 14 年 2 年施設利用者数 84 事業所  
直通電話 03-3743-2256  
FAX 03-3743-2257

### ☆ 土壌汚染対策法について

近年、有害物質による土壌汚染事例の判明件数が増加し、土壌汚染による健康影響の懸念や対策の確立への社会的要請が強まっている状況を踏まえ、国民の安全と安心の確保を図るため、土壌汚染の状況の把握、土壌汚染による人の健康被害の防止に関する措置等の土壌汚染対策を実施することを内容とする「土壌汚染対策法」が、平成14年5月22日(水)に成立し、29日(水)公布された。

産業廃棄物のご用命は、協組事務局へ Tel 03-3743-2256

## 環研ニュース

4月2、658成分を分析  
直通電話 3815-4055  
FAX 3816-6166

環境科学研究所は、4月中に2、658成分の分析を行いました。排水問題、作業環境測定等に関して、お困りのことはお気軽にご相談ください。“排水分析はあなたの工場の健康診断です”

### 1. スラッジ分析数

シアン	クロム	カドミ	鉛	水銀
56	63	55	57	7
ヒ素	その他	前処理		合計
1	59	64		362

### 2. その他排水分析

SS	COD	ヘキサン	全窒素
9	2	1	9
全りん	有機溶剤	その他	合計
5	24	37	87

3. クロム酸ミスト測定事業所数	45
4. シアン化水素測定事業所数	51
5. 有機溶剤測定事業所数	38
6. 粉じん測定事業所数	15
7. その他	11

### 8. 分析数

	シアン	クロム	重金属	合計
城東支部	17(4)	24(6)	32(5)	73(15)
城西支部	31(9)	27(7)	75(21)	133(37)
城南支部	15(3)	17(2)	49(9)	81(14)
品川支部	27(3)	29(4)	69(12)	125(19)
大田支部	42(5)	36(4)	88(15)	166(24)
城北支部	17(4)	34(6)	59(14)	110(24)
中央支部	17(1)	6(1)	39(3)	62(5)
足立支部	20(0)	25(0)	42(2)	87(2)
葛飾支部	46(1)	39(1)	93(4)	178(6)
向島支部	34(2)	21(1)	63(4)	118(7)
本所支部	4(3)	8(2)	19(10)	31(15)
西部支部	19(2)	20(2)	45(4)	84(8)
賛助会員	3(1)	5(1)	11(3)	19(5)
アドバイザー	4(4)	5(4)	28(23)	37(31)
合計	296(42)	296(41)	712(129)	1304(212)

## 日本パーカ 日本カニゼンの株式取得

日本パーカライジング(株)は6月5日、太平洋セメント子会社の無電解ニッケル大手の日本カニゼン(株)の発行済み株式71.1%を取得し、子会社化すると発表した。

日本パーカライジングがめっき業界へ事業拡大する意図と太平洋セメントが中核事業へ経営資源を集約化する意向が合致したことによる。

また、日本カニゼンのタイ進出の際は日本パーカライジングの現地法人タイパーカライジングがめっき液の製造を受託するなど提携を深めていた。日本パーカライジングは主要顧客である自動車、鉄鋼、電器、塑性、非鉄関係の金属表面処理分野でのニーズに応えるため技術開発に力を注いでおり、日本カニゼンとは事業分野が近接していることから、日本パーカライジング国内外グループとの協力関係により、一層の事業拡大を目指している。無電解ニッケルめっきは機能性を重視する金属表面処理として広く知られており自動車、産業機械、電子機器等幅広い分野で付加価値を向上させる表面処理として需要が拡大しているという。

### 編集後記

パソコンに始まるデジタル化の流れはいまや多くのデジタル家電が普及するまでに至っている。その象徴的な変化にデジタルカメラの急速な普及がある。カメラ単体にとどまらず、携帯電話などにも装備されている様々な分野で活用されている。こうした時代の流れを背景に、フィルムカメラを中心としてきた日本写真機工業会が解散し、新たにデジタルカメラも包含する新組織に衣替えすることになった。そのフィルムカメラでも一時小型のAPSカメラが新時代の主流になるとさわれたこともあったが、いまでは広告すら見かけることが少ないほど人気がなく、フィルムカメラでは依然として35mmが主流となっており、メーカーもこうした流れは予測できなかったようである。今後もデジタル化の流れは加速して

いくであろうが、個々人にとっては、こうした流れにうまく対応していくことが大事なようである。

### 広報6月号

印刷 平成14年6月15日

発行 平成14年6月15日

(毎月1回20日発行 第35巻第6号)

発行所 東京都鍍金工業組合

〒113- 東京鍍金公害防止協同組合

0034 東京都文京区湯島1-11-10

Tel03(3814)5621 FAX03(3816)6166

発行責任者 大村 功作

編集責任者 木村 秀利

印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222

〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4

定価 500円